

平成29年度

〔水道事業〕  
〔工業用水道事業〕  
〔下水道事業〕

決算参考資料

上下水道局



# 目 次

1	決算の概要	1 頁
2	業務量	
	(1) 水道事業	2 頁
	(2) 工業用水道事業	2 頁
	(3) 下水道事業	3 頁
3	決算報告	
	(1) 水道事業	
	(イ) 収益的収入及び支出	4 頁
	(ロ) 資本的収入及び支出	8 頁
	(ハ) 損益計算書	12 頁
	(ニ) 剰余金処分計算書(案)について	12 頁
	(ホ) 貸借対照表	13 頁
	(2) 工業用水道事業	
	(イ) 収益的収入及び支出	14 頁
	(ロ) 資本的収入及び支出	18 頁
	(ハ) 損益計算書	22 頁
	(ニ) 剰余金処分計算書(案)について	22 頁
	(ホ) 貸借対照表	23 頁
	(3) 下水道事業	
	(イ) 収益的収入及び支出	24 頁
	(ロ) 資本的収入及び支出	28 頁
	(ハ) 損益計算書	32 頁
	(ニ) 剰余金処分計算書(案)について	32 頁
	(ホ) 貸借対照表	33 頁
4	経営概況	
	(1) 水道事業	34 頁
	(2) 工業用水道事業	38 頁
	(3) 下水道事業	40 頁
5	主な施策	45 頁

## 1 決算の概要

上下水道局では、5年間の経営計画である中期経営計画「みずプラン32」（計画期間：平成28～32年度）の着実な遂行に努めています。

各事業の決算の概要は以下のとおりです。

### <水道事業>

収入面においては、給水量が前年度よりわずかに増加したことに伴い、給水収益は前年度を上回りました。支出面においては、経常的経費の削減などの経営改善に努めるとともに支払利息が減少する一方で資産減耗費が増加し、当年度純利益は8億2千万円余を計上しました。

### <工業用水道事業>

収入面においては、給水収益は前年度に比べ増加となりました。支出面においては、工事費が増加したことなどにより、当年度純利益は9千2百万円余を計上しました。

### <下水道事業>

収入面においては、下水道使用料、雨水処理費負担金等は前年度からほぼ横ばいとなりました。支出面においては、資産減耗費の減少や、高利率の企業債が減って支払利息が減少したことなどにより、当年度純利益は35億7千万円余を計上しました。

## 2 業務量

### (1) 水道事業

区 分	平成29年度	平成28年度	備 考
給水区域内人口 (人)	2,445,926	2,436,418	年度末現在 (A)
給水人口 (人)	2,445,920	2,436,411	〃 (B)
普及率 (%)	100.0	100.0	〃 (B/A)
給水戸数 (戸)	1,303,215	1,288,478	〃
配水管延長 (m)	8,387,898	8,376,265	〃
年間給水量 (m <sup>3</sup> )	278,385,470	277,284,690	(C)
1日平均給水量 (m <sup>3</sup> )	762,700	759,684	
1日最大給水量 (m <sup>3</sup> )	831,809	838,200	
1日最大給水量記録日	7月7日	7月7日	
年間有収水量 (m <sup>3</sup> )	262,581,315	261,573,707	(D)
有収率 (%)	94.3	94.3	(D/C)

(注) ・「有収水量」とは、給水量のうち、料金徴収の対象となった水量です。  
 ・「有収率」とは、有収水量を給水量で割った値です。

### (2) 工業用水道事業

区 分	平成29年度	平成28年度	備 考
年間給水量 (m <sup>3</sup> )	22,803,373	22,548,856	
1日平均給水量 (m <sup>3</sup> )	62,475	61,778	
事業所数 (事業所)	117	115	年度末現在
配水管延長 (m)	101,456	101,405	〃

(3) 下水道事業

区 分	平成29年度	平成28年度	備 考
処 理 面 積 (ha)	29,017	28,977	年度末現在
行政区域内人口 (人)	2,311,132	2,303,070	〃 (A)
処理区域内人口 (人)	2,295,000	2,286,600	〃 (B)
人 口 普 及 率 (%)	99.3	99.3	〃 (B/A)
処理区域内戸数 (戸)	1,241,093	1,232,580	〃 (C)
水洗化戸数 (戸)	1,238,534	1,229,993	〃 (D)
水洗化率 (%)	99.8	99.8	〃 (D/C)
下水管延長 (m)	7,868,976	7,848,897	〃
水処理センター (箇所)	15	15	〃
年間処理水量 (m <sup>3</sup> )	444,960,700	432,102,400	
1日平均処理水量 (m <sup>3</sup> )	1,219,070	1,183,842	
年間有収水量 (m <sup>3</sup> )	258,302,989	257,332,584	
ポンプ施設 (箇所)	52	52	年度末現在
年間排水量 (m <sup>3</sup> )	126,034,900	105,952,400	

- (注) ・ ポンプ施設には、水処理センター内施設 (11箇所) を含みます。  
 ・ 「有収水量」とは、処理水量のうち、使用料徴収の対象となった水量です。  
 ・ 「排水量」とは、ポンプ所などから河川に排水した雨水の水量です。

### 3 決算報告

#### (1) 水道事業

##### (イ) 収益的収入及び支出

##### 収 入

区 分	予 算 額		
	当初予算額	補正予算額	地方公営企業法第24条 第3項の規定による支 出額に係る財源充当額
第1款 水道事業収益	49,641,954,000	—	—
第1項 営業収益	48,483,959,000	—	—
給水収益	44,490,000,000	—	—
工事収益	2,266,846,000	—	—
他会計負担金	1,605,325,000	—	—
その他の営業収益	121,788,000	—	—
第2項 営業外収益	1,032,806,000	—	—
受取利息及び配当金	25,439,000	—	—
他会計負担金	174,135,000	—	—
長期前受金戻入	472,367,000	—	—
雑収益	360,865,000	—	—
第3項 特別利益	125,189,000	—	—
固定資産売却益	115,189,000	—	—
過年度損益修正益	10,000,000	—	—

(単位 円、税込)

合 計	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	備 考
49,641,954,000	50,213,766,972	571,812,972	
48,483,959,000	49,140,822,058	656,863,058	
44,490,000,000	45,350,029,606	860,029,606	水道料金
2,266,846,000	2,068,339,534	△ 198,506,466	
1,605,325,000	1,596,135,513	△ 9,189,487	消火栓関係経費、共通経費負担金
121,788,000	126,317,405	4,529,405	給水工事審査収入等
1,032,806,000	1,063,619,396	30,813,396	
25,439,000	29,058,456	3,619,456	預金利子等
174,135,000	174,251,000	116,000	水道料金特例措置、児童手当負担金
472,367,000	479,917,836	7,550,836	減価償却等に伴う長期前受金の戻入
360,865,000	380,392,104	19,527,104	土地・建物使用料等
125,189,000	9,325,518	△ 115,863,482	
115,189,000	1,644,890	△ 113,544,110	
10,000,000	7,680,628	△ 2,319,372	



支 出

区 分	予 算				地 方 公 業 営 企 第 24 法 第 3 の 条 第 3 の 項 規 定 に よ る 支 出 額
	当初予算額	補 正 予算額	予備費支出額	流用増減額	
第1款 水道経営費	49,406,954,000	—	—	—	—
第1項 営業費用	42,287,936,000	—	—	△ 28,090,280	—
原水及び浄水費	5,061,324,000	—	—	△ 382,148,972	—
配 水 費	11,471,818,000	—	—	267,811,499	—
給 水 費	3,662,830,000	—	—	△ 54,213,707	—
給水受託工事費	926,320,000	—	—	240,470,748	—
業 務 費	3,631,324,000	—	—	△ 28,090,280	—
総 係 費	2,111,138,000	—	—	△ 71,919,568	—
減 価 償 却 費	14,417,721,000	—	—	—	—
資 産 減 耗 費	926,407,000	—	—	—	—
他 会 計 負 担 金	79,054,000	—	—	—	—
第2項 営業外費用	7,059,018,000	—	10,000,000	28,090,280	—
支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	1,694,110,000	—	—	△ 49,110,297	—
施 設 改 良 費	3,100,000,000	—	—	—	—
消 費 税 及 び 地 方 消 費 税	911,760,000	—	10,000,000	207,577,500	—
消 費 税 及 び 地 方 消 費 税 資 本 的 収 支 調 整 額	1,343,148,000	—	—	△ 123,399,032	—
雑 支 出	10,000,000	—	—	△ 6,977,891	—
第3項 特別損失	50,000,000	—	—	—	—
過 年 度 損 益 損 修 正 損	50,000,000	—	—	—	—
第4項 予 備 費	10,000,000	—	△ 10,000,000	—	—
予 備 費	10,000,000	—	△ 10,000,000	—	—

(単位 円、税込)

額		合 計	決 算 額	地 方 公 業 営 企 業 法 第 26 条 第 2 項 規 定 に 基 づ き 繰 越 額	不 用 額	備 考
小 計	地 方 公 業 営 企 業 法 第 26 条 第 2 項 規 定 に 基 づ き 繰 越 額					
49,406,954,000	—	49,406,954,000	49,385,418,768	—	21,535,232	
42,259,845,720	—	42,259,845,720	42,279,818,090	—	△ 19,972,370	
4,679,175,028	—	4,679,175,028	4,599,200,626	—	79,974,402	取水場から浄水場 までの維持運営費
11,739,629,499	—	11,739,629,499	11,698,442,411	—	41,187,088	第4次配水管網整備費及び 配水施設の維持管理費
3,608,616,293	—	3,608,616,293	3,404,556,780	—	204,059,513	給水施設の維持管理費
1,166,790,748	—	1,166,790,748	1,155,987,514	—	10,803,234	
3,603,233,720	—	3,603,233,720	3,602,563,436	—	670,284	料金徴収等業務運営費
2,039,218,432	—	2,039,218,432	2,026,482,369	—	12,736,063	経営管理費
14,417,721,000	—	14,417,721,000	14,369,948,246	—	47,772,754	
926,407,000	—	926,407,000	1,343,731,103	—	△ 417,324,103	
79,054,000	—	79,054,000	78,905,605	—	148,395	事務費負担金
7,097,108,280	—	7,097,108,280	7,097,108,280	—	0	
1,644,999,703	—	1,644,999,703	1,644,999,703	—	0	利子及び手数料等
3,100,000,000	—	3,100,000,000	3,100,000,000	—	0	施設改良等の資本的支 出にあてる補てん費
1,129,337,500	—	1,129,337,500	1,129,337,500	—	0	
1,219,748,968	—	1,219,748,968	1,219,748,968	—	0	
3,022,109	—	3,022,109	3,022,109	—	0	
50,000,000	—	50,000,000	8,492,398	—	41,507,602	
50,000,000	—	50,000,000	8,492,398	—	41,507,602	
0	—	0	0	—	0	
0	—	0	0	—	0	

(口) 資本的収入及び支出

収入

区 分	予 算			地方公営企業の 法第26条による 繰越額に係る 財源充当額	継続費 繰越額 に充てる 額
	当初予算額	補正予算額	小 計		
第1款 資本的収入	5,794,447,000	—	5,794,447,000	1,500,000,000	—
第1項 企業債	3,500,000,000	—	3,500,000,000	1,500,000,000	—
水道事業債	3,500,000,000	—	3,500,000,000	1,500,000,000	—
第2項 出資金	139,000,000	—	139,000,000	—	—
一般会計 出資金	139,000,000	—	139,000,000	—	—
第3項 県補助金	278,459,000	—	278,459,000	—	—
県補助金	278,459,000	—	278,459,000	—	—
第4項 他会計貸付金 返還金	134,855,000	—	134,855,000	—	—
他会計貸付金 返還金	134,855,000	—	134,855,000	—	—
第5項 基金収入	3,197,000	—	3,197,000	—	—
基金収入	3,197,000	—	3,197,000	—	—
第6項 基金繰入金	26,841,000	—	26,841,000	—	—
基金繰入金	26,841,000	—	26,841,000	—	—
第7項 その他の 資本収入	1,712,095,000	—	1,712,095,000	—	—
基本工事 収入	895,752,000	—	895,752,000	—	—
工費収入	774,287,000	—	774,287,000	—	—
固定資産 売却却 の他 資本収入	0	—	0	—	—
その他 資本収入	42,056,000	—	42,056,000	—	—

(単位 円、税込)

合 計	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	備 考
7,294,447,000	5,850,313,190	△ 1,444,133,810	
5,000,000,000	3,500,000,000	△ 1,500,000,000	
5,000,000,000	3,500,000,000	△ 1,500,000,000	第4次水道基幹施設整備費に充てる起債
139,000,000	139,000,000	0	
139,000,000	139,000,000	0	水源施設建設負担金にあてる出資金
278,459,000	318,375,000	39,916,000	
278,459,000	318,375,000	39,916,000	生活基盤施設耐震化等補助金
134,855,000	134,854,999	△ 1	
134,855,000	134,854,999	△ 1	工業用水道事業会計からの貸付金返還金
3,197,000	2,741,191	△ 455,809	
3,197,000	2,741,191	△ 455,809	利子
26,841,000	20,062,240	△ 6,778,760	
26,841,000	20,062,240	△ 6,778,760	水道事業基金繰入金
1,712,095,000	1,735,279,760	23,184,760	
895,752,000	1,129,120,200	233,368,200	基本工事費収入
774,287,000	553,732,982	△ 220,554,018	配水管布設工事収入
0	471,910	471,910	
42,056,000	51,954,668	9,898,668	メータ負担金等

支 出

区 分	予 算 額					
	当初予算額	補 正 予算額	流 用 増減額	小 計	地方公営企業 法第26条の 規定による 繰 越 額	継続 費通 次繰 越額
第1款 資本的支出	26,696,627,000	—	—	26,696,627,000	7,561,224,493	—
第1項 建設改良費	19,371,785,000	—	—	19,371,785,000	7,561,224,493	—
施設費	760,995,000	—	—	760,995,000	25,941,600	—
浄水施設 増補改良費	9,159,287,000	—	—	9,159,287,000	3,082,636,290	—
配水施設 増補改良費	9,034,658,000	—	—	9,034,658,000	4,452,646,603	—
リース資産 購入費	416,845,000	—	—	416,845,000	—	—
第2項 償 還 金	7,321,645,000	—	—	7,321,645,000	—	—
企業債 還 金	5,040,134,000	—	—	5,040,134,000	—	—
水資源機 構金	2,281,511,000	—	—	2,281,511,000	—	—
第3項 投 資	3,197,000	—	—	3,197,000	—	—
基金造成費	3,197,000	—	—	3,197,000	—	—

資本的収入額が資本的支出額に不足する額 19,155,515,894円は、留保資金等で補てんした。

(単位 円、税込)

合 計	決 算 額	翌年度繰越額			不 用 額	備 考
		地方公営企業 法第26条の 規定による 繰越額	継続 費通 次繰 越額	合 計		
34,257,851,493	25,005,829,084	7,258,240,357	—	7,258,240,357	1,993,782,052	
26,933,009,493	17,681,443,611	7,258,240,357	—	7,258,240,357	1,993,325,525	
786,936,600	711,596,666	—	—	—	75,339,934	固定資産の取得費等
12,241,923,290	7,641,858,919	3,820,101,008	—	3,820,101,008	779,963,363	第4次水道基幹施設 整備費等
13,487,304,603	8,954,907,583	3,438,139,349	—	3,438,139,349	1,094,257,671	第4次配水管網整備 費等
416,845,000	373,080,443	—	—	—	43,764,557	情報システム機器の リース料
7,321,645,000	7,321,644,282	—	—	—	718	
5,040,134,000	5,040,133,647	—	—	—	353	
2,281,511,000	2,281,510,635	—	—	—	365	水源施設建設負担金
3,197,000	2,741,191	—	—	—	455,809	
3,197,000	2,741,191	—	—	—	455,809	水道事業基金造成費

## (ハ) 損益計算書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

(単位 円、税抜)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	41,077,776,177	営業収益	45,596,197,039
原水及び浄水費	4,388,710,985	給水収益	41,992,900,428
配水費	11,024,809,100	工事収益	1,997,274,126
給水費	3,290,939,766	他会計負担金	1,481,786,662
給水受託工事費	1,078,454,225	その他の営業収益	124,235,823
業務費	3,500,635,295	営業外収益	1,056,129,951
総係費	2,005,132,285	受取利息及び配当金	29,058,456
減価償却費	14,369,948,246	他会計負担金	174,251,000
資産減耗費	1,343,731,103	長期前受金戻入	479,917,836
他会計負担金	75,415,172	雑収益	372,902,659
営業外費用	4,746,981,743	特別利益	8,691,082
支払利息及び	1,643,677,360	固定資産売却益	1,523,046
企業債取扱諸費	3,100,000,000	過年度損益修正益	7,168,036
施設改良費	3,304,383		
雑支出	7,911,948		
特別損失	7,911,948		
過年度損益修正損	828,348,204		
当年度純利益			
計	46,661,018,072	計	46,661,018,072
その他未処分利益 剰余金変動額	810,373,758		
当年度未処分 利益剰余金	1,638,721,962		

## (ニ) 剰余金処分計算書(案)について

当年度未処分利益剰余金 1,638,721,962円については、828,348,204円(当年度純利益相当額)を建設改良積立金に積立処分し、810,373,758円(その他未処分利益剰余金変動額相当額)を資本金へ組入処分するものです。

## (ホ) 貸借対照表

(平成30年3月31日)

(単位 円、税抜)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	349,311,603,641	固定負債	107,915,622,646
有形固定資産	297,797,271,675	企業債	83,867,566,332
土地	10,616,240,300	建設改良費等の財源に 充てるための企業債	83,867,566,332
建物	37,852,838,983	水資源機構資金	11,592,491,565
構築物	453,604,707,021	リース債務	731,251,320
機械及び装置	74,917,560,198	引当金	11,724,313,429
車両運搬具	441,511,023	退職給付引当金	9,214,558,383
工具器具及び備品	883,342,008	修繕引当金	2,509,755,046
リース資産	1,936,304,650	流動負債	22,409,249,511
建設仮勘定	16,728,412,333	企業債	5,915,379,918
減価償却累計額	△ 299,183,644,841	建設改良費等の財源に 充てるための企業債	5,915,379,918
無形固定資産	42,492,071,168	水資源機構資金	1,123,851,244
水利権	240,704,012	リース債務	438,247,411
ダム使用権	33,831,776,801	他会計運用資金	1,400,000,000
地上権	2,580,800	未払金	9,282,531,003
庁舎利用権	528,348,766	前受金	1,290,768,869
施設利用権	5,764,889,673	引当金	767,821,902
その他無形固定資産	2,123,771,116	賞与引当金	767,821,902
投資	9,022,260,798	その他流動負債	2,190,649,164
投資有価証券	320,000,000	繰延収益	18,722,684,572
長期貸付金	6,527,308,301	長期前受金	22,123,103,322
基金	2,163,536,497	収益化累計額	△ 3,400,418,750
その他投資	11,416,000	資本金	245,617,914,841
流動資産	48,261,396,986	剰余金	2,907,529,057
現金預金	42,928,250,147	資本剰余金	20,567,485
未収金	3,586,671,858	受贈財産評価額	20,567,485
貸倒引当金	△ 24,268,606	利益剰余金	2,886,961,572
短期貸付金	135,327,404	建設改良積立金	1,248,239,610
前払費用	5,447,750	当年度未処分 利益剰余金	1,638,721,962
前払金	1,613,566,000		
その他流動資産	16,402,433		
計	397,573,000,627	計	397,573,000,627



(2) 工業用水道事業

(イ) 収益的収入及び支出

収入

区 分	予 算 額		
	当初予算額	補正予算額	地方公営企業法第24条 第3項の規定による支 出額に係る財源充当額
第1款 工業用水道事業収益	1,001,800,000	—	—
第1項 営業収益	875,960,000	—	—
給水収益	856,570,000	—	—
受託工事収益	19,390,000	—	—
第2項 営業外収益	125,340,000	—	—
受取利息及び配当金	155,000	—	—
他会計負担金	320,000	—	—
長期前受金戻入	123,613,000	—	—
雑収益	1,252,000	—	—
第3項 特別利益	500,000	—	—
過年度損益修正益	500,000	—	—

(単位 円、税込)

合 計	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	備 考
1,001,800,000	1,015,370,570	13,570,570	
875,960,000	891,829,255	15,869,255	
856,570,000	865,902,232	9,332,232	工業用水道料金
19,390,000	25,927,023	6,537,023	
125,340,000	123,541,256	△ 1,798,744	
155,000	173,733	18,733	預金利子等
320,000	20,000	△ 300,000	児童手当負担金
123,613,000	122,893,070	△ 719,930	減価償却等に伴う長期前受金の戻入
1,252,000	454,453	△ 797,547	
500,000	59	△ 499,941	
500,000	59	△ 499,941	

支 出

区 分	予 算				地方公 営企業 法第24 条第3 項の 規定に よる 支出額
	当初予算額	補 正 予算額	予備費 支出額	流用増減額	
第1款 工業用水道経営費	996,800,000	—	—	—	—
第1項 営 業 費 用	918,869,000	—	—	△ 2,611,724	—
供 給 費	289,276,000	—	—	△ 2,611,724	—
減 価 償 却 費	548,058,000	—	—	—	—
資 産 減 耗 費	42,631,000	—	—	—	—
他 会 計 負 担 金	38,904,000	—	—	—	—
第2項 営 業 外 費 用	76,431,000	—	1,000,000	2,611,724	—
支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	23,774,000	—	—	△ 100,679	—
施 設 改 良 費	10,000,000	—	—	—	—
消 費 税 及 び 地 方 消 費 税	10,598,000	—	1,000,000	21,028,000	—
消費税及び地方消費税 資本的収支調整額	31,059,000	—	—	△ 17,315,597	—
雑 支 出	1,000,000	—	—	△ 1,000,000	—
第3項 特 別 損 失	500,000	—	—	—	—
過 年 度 損 益 損 修 正 損 益 損	500,000	—	—	—	—
第4項 予 備 費	1,000,000	—	△ 1,000,000	—	—
予 備 費	1,000,000	—	△ 1,000,000	—	—

(単位 円、税込)

額		合 計	決 算 額	地方公 営企業 法第26 条第2 項の規 定によ る繰越 額	不 用 額	備 考
小 計	地方公 営企業 法第26 条第2 項の規 定によ る繰越 額					
996,800,000	—	996,800,000	923,217,044	—	73,582,956	
916,257,276	—	916,257,276	843,174,320	—	73,082,956	
286,664,276	—	286,664,276	231,939,887	—	54,724,389	業務及び維持経営費
548,058,000	—	548,058,000	556,420,651	—	△ 8,362,651	
42,631,000	—	42,631,000	15,911,617	—	26,719,383	
38,904,000	—	38,904,000	38,902,165	—	1,835	共通経費負担金
80,042,724	—	80,042,724	80,042,724	—	0	
23,673,321	—	23,673,321	23,673,321	—	0	利子
10,000,000	—	10,000,000	10,000,000	—	0	施設改良等の資本的支出にあてる補てん費
32,626,000	—	32,626,000	32,626,000	—	0	
13,743,403	—	13,743,403	13,743,403	—	0	
0	—	0	0	—	0	
500,000	—	500,000	0	—	500,000	
500,000	—	500,000	0	—	500,000	
0	—	0	0	—	0	
0	—	0	0	—	0	

(ロ) 資本的収入及び支出

収 入

区 分	予 算 額			地方公営企業 法第26条の 規定による 繰越額に係る 財源充当額	継続費 遡次 繰越額に係る 財源充当額
	当初予算額	補 予 算 正 額	小 計		
第1款 資本的収入	13,286,000	—	13,286,000	—	—
第1項 出 資 金	2,486,000	—	2,486,000	—	—
一般会計 出 資 金	2,486,000	—	2,486,000	—	—
第2項 その他の 資 本 収 入	10,800,000	—	10,800,000	—	—
工 費 収 入	10,800,000	—	10,800,000	—	—

(単位 円、税込)

合 計	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	備 考
13,286,000	16,285,910	2,999,910	
2,486,000	1,755,000	△ 731,000	
2,486,000	1,755,000	△ 731,000	水源施設建設負担金にあてる出資金
10,800,000	14,530,910	3,730,910	
10,800,000	14,530,910	3,730,910	配水管布設工事収入

## 支 出

区 分	予 算 額				地方公営企業 法第26条の 規定による 繰越額	継続 費通 次繰 越額
	当初予算額	補正 予算額	流用 増減額	小 計		
第1款 資本的支出	574,796,000	—	—	574,796,000	9,471,600	—
第1項 建設改良費	439,941,000	—	—	439,941,000	9,471,600	—
施設費	431,656,000	—	—	431,656,000	9,471,600	—
建設費	8,285,000	—	—	8,285,000	—	—
第2項 他会計 借入還金	134,855,000	—	—	134,855,000	—	—
他借入 返還金	134,855,000	—	—	134,855,000	—	—

資本的収入額が資本的支出額に不足する額 325,619,361円は、留保資金等で補てんした。

(単位 円、税込)

合 計	決 算 額	翌年度繰越額			不 用 額	備 考
		地方公営企業 法第26条の 規定による 繰越額	継続 費通 次繰 越額	合 計		
584,267,600	341,905,271	145,397,862	—	145,397,862	96,964,467	
449,412,600	207,050,272	145,397,862	—	145,397,862	96,964,466	
441,127,600	201,197,901	145,397,862	—	145,397,862	94,531,837	施設の建設改良費等
8,285,000	5,852,371	—	—	—	2,432,629	水源施設建設負担金
134,855,000	134,854,999	—	—	—	1	
134,855,000	134,854,999	—	—	—	1	水道事業会計への借入金返還金



## (ハ) 損益計算書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

(単位 円、税抜)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営 業 費 用	825,220,470	営 業 収 益	827,520,646
供 給 費	216,864,152	給 水 収 益	801,761,972
減 価 償 却 費	556,420,651	受 託 工 事 収 益	25,758,674
資 産 減 耗 費	15,911,617	営 業 外 収 益	123,527,581
他 会 計 負 担 金	36,024,050	受 取 利 息 及 び 配 当 金	173,733
営 業 外 費 用	33,674,290	他 会 計 負 担 金	20,000
支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	23,673,321	長 期 前 受 金 戻 入	122,893,070
施 設 改 良 費	10,000,000	雑 収 益	440,778
雑 支 出	969	特 別 利 益	59
当 年 度 純 利 益	92,153,526	過 年 度 損 益 修 正 益	59
計	951,048,286	計	951,048,286
前年度繰越利益剰余金	100,000,000		
その他未処分利益 剰余金変動額	54,112,607		
当年度未処分 利益剰余金	246,266,133		

## (二) 剰余金処分計算書(案)について

当年度未処分利益剰余金 246,266,133円については、92,153,526円(当年度純利益相当額)を建設改良積立金に積立処分し、54,112,607円(その他未処分利益剰余金変動額相当額)を資本金へ組入処分するものです。残額の100,000,000円については、繰越利益剰余金として翌年度へ繰り越すこととします。

## (ホ) 貸借対照表

(平成30年3月31日)

(単位 円、税抜)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
固 定 資 産	16,474,952,285	固 定 負 債	6,609,840,815
有 形 固 定 資 産	5,438,676,133	他 会 計 借 入 金	6,527,308,301
土 地	149,644,690	建設改良費等の財源に 充てるための長期借入金	6,527,308,301
建 物	473,807,793	引 当 金	82,532,514
構 築 物	9,736,209,517	退 職 給 付 引 当 金	12,045,044
機 械 及 び 装 置	2,455,714,270	修 繕 引 当 金	70,487,470
工 具 器 具 及 び 備 品	8,594,600	流 動 負 債	308,909,542
建 設 仮 勘 定	60,482,591	他 会 計 借 入 金	135,327,404
減 価 償 却 累 計 額	△ 7,445,777,328	建設改良費等の財源に 充てるための長期借入金	135,327,404
無 形 固 定 資 産	11,036,276,152	未 払 金	168,356,254
水 利 権	219,649,519	引 当 金	1,874,406
ダ ム 使 用 権	10,751,942,061	賞 与 引 当 金	1,874,406
庁 舎 利 用 権	202,630	そ の 他 流 動 負 債	3,351,478
そ の 他 無 形 固 定 資 産	64,481,942	繰 延 収 益	4,503,771,748
流 動 資 産	2,389,681,882	長 期 前 受 金	4,573,902,215
現 金 預 金	918,482,882	収 益 化 累 計 額	△ 70,130,467
未 収 金	42,060,168	資 本 金	7,122,582,272
運 用 金	1,400,000,000	剰 余 金	319,529,790
前 払 金	27,500,000	利 益 剰 余 金	319,529,790
そ の 他 流 動 資 産	1,638,832	建設改良積立金	73,263,657
		当 年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金	246,266,133
計	18,864,634,167	計	18,864,634,167

(3) 下水道事業

(イ) 収益的収入及び支出

収 入

区 分	予 算		地方公営企業法第24条 第3項の規定による支 出額に係る財源充当額
	当初予算額	補正予算額	
第1款 下水道事業収益	74,571,527,000	—	—
第1項 営業収益	69,125,657,000	—	—
下水道使用料	32,849,000,000	—	—
他会計負担金	34,781,023,000	—	—
受託工事収益	1,400,274,000	—	—
その他の営業収益	95,360,000	—	—
第2項 営業外収益	5,440,870,000	—	—
受取利息及び配当金	370,000	—	—
他会計負担金	206,783,000	—	—
他会計補助金	4,155,000	—	—
消費税及び 地方消費税還付金	286,465,000	—	—
長期前受金戻入	4,532,545,000	—	—
雑 収 益	410,552,000	—	—
第3項 特別利益	5,000,000	—	—
固定資産売却益	0	—	—
過年度損益修正益	5,000,000	—	—

(単位 円、税込)

合 計	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	備 考																								
74,571,527,000	75,315,582,603	744,055,603																									
69,125,657,000	70,112,104,861	986,447,861																									
32,849,000,000	33,718,568,443	869,568,443																									
34,781,023,000	34,754,770,962	△ 26,252,038	雨水処理費、緊急雨水整備事業費及び高度処理費負担金 (参考) 雨水処理費負担金の算定内訳 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>対象経費 (千円)</th> <th>雨水 負担率</th> <th>雨水負担額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>維持管理費</td> <td>22,525,181</td> <td>34.8%</td> <td>7,839,336</td> </tr> <tr> <td>資 本 費</td> <td>39,378,582</td> <td>58.3%</td> <td>22,976,664</td> </tr> <tr> <td>小 計</td> <td>61,903,763</td> <td>49.8%</td> <td>30,816,000</td> </tr> <tr> <td>精算分(平成27年度)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>521,380</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>61,903,763</td> <td>50.6%</td> <td>31,337,380</td> </tr> </tbody> </table> <p>(備考) 下水道経営費 72,918,527 (平成29年度予算) 控 除 額 等 △ 11,014,764 対 象 経 費 61,903,763</p>		対象経費 (千円)	雨水 負担率	雨水負担額 (千円)	維持管理費	22,525,181	34.8%	7,839,336	資 本 費	39,378,582	58.3%	22,976,664	小 計	61,903,763	49.8%	30,816,000	精算分(平成27年度)	—	—	521,380	合 計	61,903,763	50.6%	31,337,380
	対象経費 (千円)	雨水 負担率	雨水負担額 (千円)																								
維持管理費	22,525,181	34.8%	7,839,336																								
資 本 費	39,378,582	58.3%	22,976,664																								
小 計	61,903,763	49.8%	30,816,000																								
精算分(平成27年度)	—	—	521,380																								
合 計	61,903,763	50.6%	31,337,380																								
1,400,274,000	1,542,965,188	142,691,188																									
95,360,000	95,800,268	440,268	生産物売却代等																								
5,440,870,000	5,196,256,622	△ 244,613,378																									
370,000	1,542,236	1,172,236	預金利子等																								
206,783,000	204,323,000	△ 2,460,000	下水道使用料特例措置、水質規制経費、水洗便所普及 事務費及び児童手当負担金																								
4,155,000	1,520,000	△ 2,635,000	水洗便所普及助成費補助金																								
286,465,000	129,401,452	△ 157,063,548																									
4,532,545,000	4,447,725,947	△ 84,819,053	減価償却等に伴う長期前受金の戻入																								
410,552,000	411,743,987	1,191,987	土地・建物使用料等																								
5,000,000	7,221,120	2,221,120																									
0	363,960	363,960																									
5,000,000	6,857,160	1,857,160																									

支 出

区 分	予 算 額					小 計
	当初予算額	補 正 予算額	予備費 支出額	流用増減額	地方公 営企業 法第24 条第3 項の 規定に よる 支出額	
第1款 下水道経営費	72,918,527,000	—	—	—	—	72,918,527,000
第1項 営業費用	63,087,166,000	—	—	—	—	63,087,166,000
下水管費	5,720,647,000	—	—	97,384,696	—	5,818,031,696
処理場費	7,374,701,000	—	—	△ 160,459,115	—	7,214,241,885
汚泥処理場費	3,944,764,000	—	—	△ 170,702,543	—	3,774,061,457
ポンプ所費	2,715,573,000	—	—	36,114,142	—	2,751,687,142
受託工事費	1,574,962,000	—	—	368,522,955	—	1,943,484,955
総係費	2,438,008,000	—	—	△ 170,860,135	—	2,267,147,865
減価償却費	36,189,834,000	—	—	—	—	36,189,834,000
資産減耗費	1,579,959,000	—	—	—	—	1,579,959,000
他会計負担金	1,548,718,000	—	—	—	—	1,548,718,000
第2項 営業外費用	9,791,361,000	—	—	—	—	9,791,361,000
支払利息及び 企業債取扱諸費	7,769,492,000	—	—	—	—	7,769,492,000
水洗便所費	88,212,000	—	—	—	—	88,212,000
消費税及び地方消費税 資本的収支調整額	1,932,657,000	—	—	—	—	1,932,657,000
雑支出	1,000,000	—	—	—	—	1,000,000
第3項 特別損失	30,000,000	—	—	—	—	30,000,000
過年度損益 修正損	30,000,000	—	—	—	—	30,000,000
第4項 予備費	10,000,000	—	—	—	—	10,000,000
予備費	10,000,000	—	—	—	—	10,000,000

(単位 円、税込)

地 営 法 条 項 規 定 よ り 繰 越 額	公 業 第 2 の に る 額	合 計	決 算 額	地 営 法 条 項 規 定 よ り 繰 越 額	公 業 第 2 の に る 額	不 用 額	備 考
2,030,400	72,920,557,400	71,740,076,801	—	1,180,480,599			
2,030,400	63,089,196,400	62,278,719,890	—	810,476,510			
—	5,818,031,696	5,818,031,696	—	0			下水管の維持管理費
2,030,400	7,216,272,285	7,154,370,114	—	61,902,171			下水処理施設の維持管理費
—	3,774,061,457	3,702,599,122	—	71,462,335			汚泥処理施設の維持管理費
—	2,751,687,142	2,751,687,142	—	0			ポンプ施設の維持管理費
—	1,943,484,955	1,923,704,583	—	19,780,372			
—	2,267,147,865	1,837,668,502	—	429,479,363			経営管理費
—	36,189,834,000	36,213,742,824	—	△ 23,908,824			
—	1,579,959,000	1,337,532,717	—	242,426,283			
—	1,548,718,000	1,539,383,190	—	9,334,810			共通経費負担金
—	9,791,361,000	9,450,213,288	—	341,147,712			
—	7,769,492,000	7,558,055,344	—	211,436,656			利子及び手数料等
—	88,212,000	64,135,421	—	24,076,579			水洗便所普及費
—	1,932,657,000	1,828,022,473	—	104,634,527			
—	1,000,000	50	—	999,950			
—	30,000,000	11,143,623	—	18,856,377			
—	30,000,000	11,143,623	—	18,856,377			
—	10,000,000	0	—	10,000,000			
—	10,000,000	0	—	10,000,000			

## (ロ) 資本的収入及び支出

## 収 入

区 分	予 算 額				地方公営企業 法第26条の 規定による 繰越額に係る 財源充当額	継続費通 次繰越額 に係る財 源充当額
	当初予算額	補正予算額	小 計			
第1款 資本的収入	27,024,913,000	—	27,024,913,000	13,066,185,300	—	
第1項 企業債	18,000,000,000	—	18,000,000,000	10,000,000,000	—	
下水道事業債	18,000,000,000	—	18,000,000,000	10,000,000,000	—	
第2項 国庫補助金	8,013,650,000	—	8,013,650,000	3,066,185,300	—	
国庫補助金	8,013,650,000	—	8,013,650,000	3,066,185,300	—	
第3項 その他の 資本収入	969,952,000	—	969,952,000	—	—	
工費収入	969,952,000	—	969,952,000	—	—	
固定資産代 売却	0	—	0	—	—	
第4項 水洗便所改造資金 貸付事業収入	41,311,000	—	41,311,000	—	—	
企業債	12,000,000	—	12,000,000	—	—	
他会計借入金	13,000,000	—	13,000,000	—	—	
貸付金返還金	16,311,000	—	16,311,000	—	—	

(単位 円、税込)

合 計	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	備 考
40,091,098,300	26,921,080,604	△ 13,170,017,696	
28,000,000,000	18,519,000,000	△ 9,481,000,000	
28,000,000,000	18,519,000,000	△ 9,481,000,000	建設費にあてる起債
11,079,835,300	7,515,016,378	△ 3,564,818,922	
11,079,835,300	7,515,016,378	△ 3,564,818,922	建設費補助金
969,952,000	872,853,226	△ 97,098,774	
969,952,000	872,752,786	△ 97,199,214	関連工事費収入等
0	100,440	100,440	
41,311,000	14,211,000	△ 27,100,000	
12,000,000	0	△ 12,000,000	水洗便所改造資金貸付金にあてる起債
13,000,000	7,000,000	△ 6,000,000	浄化槽廃止貸付金にあてる借入金
16,311,000	7,211,000	△ 9,100,000	



支 出

区 分	予 算 額				地方公営企業 法第26条の 規定による 繰越額	継続 費通 次繰 越額
	当初予算額	補正 予算額	流用 増減額	小 計		
第1款 資本的支出	65,949,926,000	—	—	65,949,926,000	14,601,034,939	—
第1項 建設改良費	38,077,771,000	—	—	38,077,771,000	14,601,034,939	—
施設費	76,821,000	—	—	76,821,000	—	—
拡張費	38,000,000,000	—	—	38,000,000,000	14,601,034,939	—
リース資産 購入費	950,000	—	—	950,000	—	—
第2項 償還金	27,838,755,000	—	—	27,838,755,000	—	—
企業債 償還金	27,838,755,000	—	—	27,838,755,000	—	—
第3項 水洗便所改造 資金貸付事業費	33,400,000	—	—	33,400,000	—	—
貸付金	20,400,000	—	—	20,400,000	—	—
他会計借入金 返還金	13,000,000	—	—	13,000,000	—	—

資本的収入額（翌年度へ繰り越される支出の財源に充当する額 965,362,500円を除く。）が、繰越工事資金 812,776,700円及び留保資金等で補てんした。

(単位 円、税込)

合 計	決 算 額	翌年度繰越額			不 用 額	備 考
		地方公営企業 法第26条の 規定による 繰越額	継続 費通 次繰 越額	合 計		
80,550,960,939	64,680,896,006	15,133,421,145	—	15,133,421,145	736,643,788	
52,678,805,939	36,832,247,775	15,133,421,145	—	15,133,421,145	713,137,019	
76,821,000	50,772,727	—	—	—	26,048,273	固定資産の取得 費等
52,601,034,939	36,780,525,080	15,133,421,145	—	15,133,421,145	687,088,714	下水道施設の建 設事業費
950,000	949,968	—	—	—	32	情報システム機 器のリース料
27,838,755,000	27,838,754,231	—	—	—	769	
27,838,755,000	27,838,754,231	—	—	—	769	
33,400,000	9,894,000	—	—	—	23,506,000	
20,400,000	2,894,000	—	—	—	17,506,000	水洗便所改造資 金等貸付金
13,000,000	7,000,000	—	—	—	6,000,000	

資本的支出額に不足する額 38,729,494,902円（水洗便所改造資金貸付事業収支を除く。）は、

## (ハ) 損益計算書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

(単位 円、税抜)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	60,935,515,738	営業収益	67,496,568,970
下水道費	5,494,282,670	下水道使用料	31,223,436,863
処理場費	6,801,841,999	他会計負担金	34,754,770,962
汚泥処理場費	3,450,153,825	受託工事収益	1,429,657,043
ポンプ所費	2,612,884,603	その他の営業収益	88,704,102
受託工事費	1,790,545,456	営業外収益	5,052,406,256
総係費	1,807,403,572	受取利息及び配当金	1,542,236
減価償却費	36,213,742,824	他会計負担金	204,323,000
資産減耗費	1,337,532,717	他会計補助金	1,520,000
他会計負担金	1,427,128,072	長期前受金戻入	4,447,725,947
営業外費用	8,034,282,676	雑収益	397,295,073
支払利息及び	7,553,724,357	特別利益	6,741,886
企業債取扱諸費		固定資産売却益	337,000
水洗便所費	63,899,411	過年度損益修正益	6,404,886
雑支出	416,658,908		
特別損失	10,412,896		
過年度損益修正損	10,412,896		
当年度純利益	3,575,505,802		
計	72,555,717,112	計	72,555,717,112
その他未処分利益 剰余金変動額	1,806,958,122		
当年度未処分 利益剰余金	5,382,463,924		

## (二) 剰余金処分計算書(案)について

当年度未処分利益剰余金 5,382,463,924円については、3,575,505,802円(当年度純利益相当額)を建設改良積立金に積立処分し、1,806,958,122円(その他未処分利益剰余金変動額相当額)を資本金へ組入処分するものです。

## (ホ) 貸借対照表

(平成30年3月31日)

(単位 円、税抜)

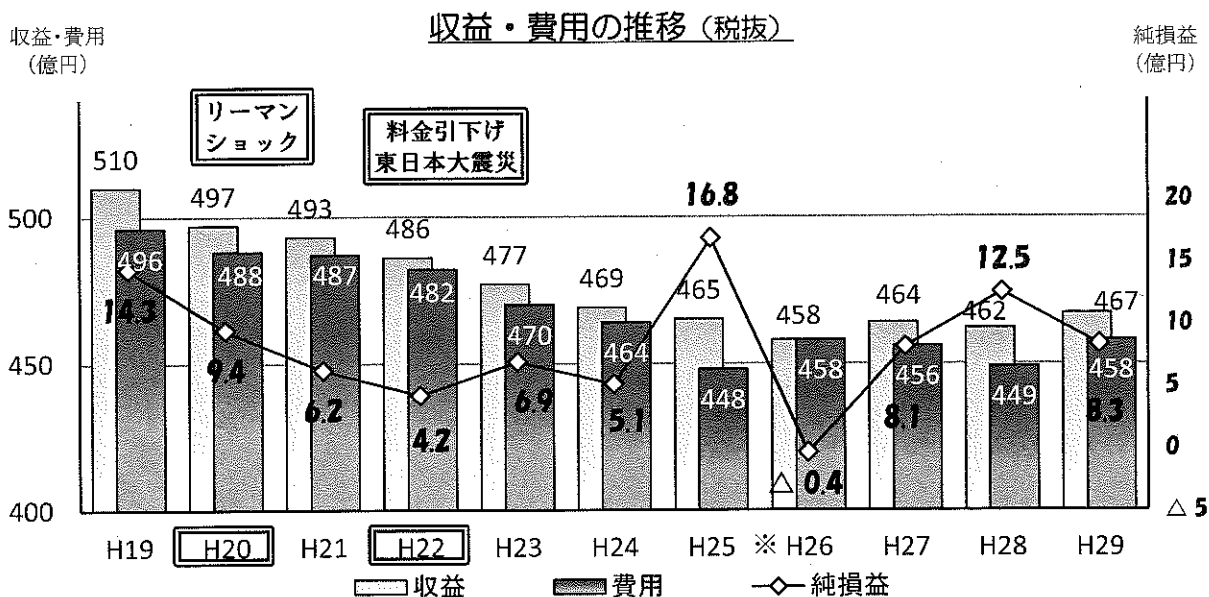
借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
固 定 資 産	1,017,723,024,170	固 定 負 債	427,345,148,479
有 形 固 定 資 産	1,015,700,150,371	企 業 債	422,814,916,435
土 地	50,798,083,239	建設改良費等の財源に 充てるための企業債	422,814,916,435
建 物	90,981,401,235	引 当 金	4,530,232,044
構 築 物	1,343,110,043,034	退職給付引当金	4,530,232,044
機 械 及 び 装 置	294,742,676,320	流 動 負 債	41,967,056,232
車 両 運 搬 具	524,551,023	企 業 債	26,324,623,294
工 具 器 具 及 び 備 品	620,449,297	建設改良費等の財源に 充てるための企業債	26,324,623,294
リ ー ス 資 産	3,518,400	リ ー ス 債 務	79,164
建 設 仮 勘 定	23,258,794,660	未 払 金	13,714,085,184
減 価 償 却 累 計 額	△ 788,339,366,837	前 受 金	1,425,721,871
無 形 固 定 資 産	1,633,339,799	引 当 金	331,021,878
庁 舎 利 用 権	323,060,113	賞 与 引 当 金	331,021,878
施 設 利 用 権	1,269,683,642	そ の 他 流 動 負 債	171,524,841
そ の 他 無 形 固 定 資 産	40,596,044	繰 延 収 益	129,541,656,263
投 資	389,534,000	長 期 前 受 金	168,043,866,958
投 資 有 価 証 券	310,000,000	収 益 化 累 計 額	△ 38,502,210,695
長 期 貸 付 金	2,064,000	資 本 金	443,570,411,216
そ の 他 投 資	77,470,000	剰 余 金	13,100,265,403
流 動 資 産	37,801,513,423	資 本 剰 余 金	5,503,133,162
現 金 預 金	23,183,210,109	受 贈 財 産 評 価 額	726,133,162
未 収 金	10,876,146,139	国 庫 補 助 金	4,777,000,000
貸 倒 引 当 金	△ 19,250,402	利 益 剰 余 金	7,597,132,241
短 期 貸 付 金	4,184,000	建 設 改 良 積 立 金	2,214,668,317
前 払 費 用	3,774,223	当 年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金	5,382,463,924
前 払 金	3,741,230,000		
そ の 他 流 動 資 産	12,219,354		
計	1,055,524,537,593	計	1,055,524,537,593

## 4 経営概況

### (1) 水道事業

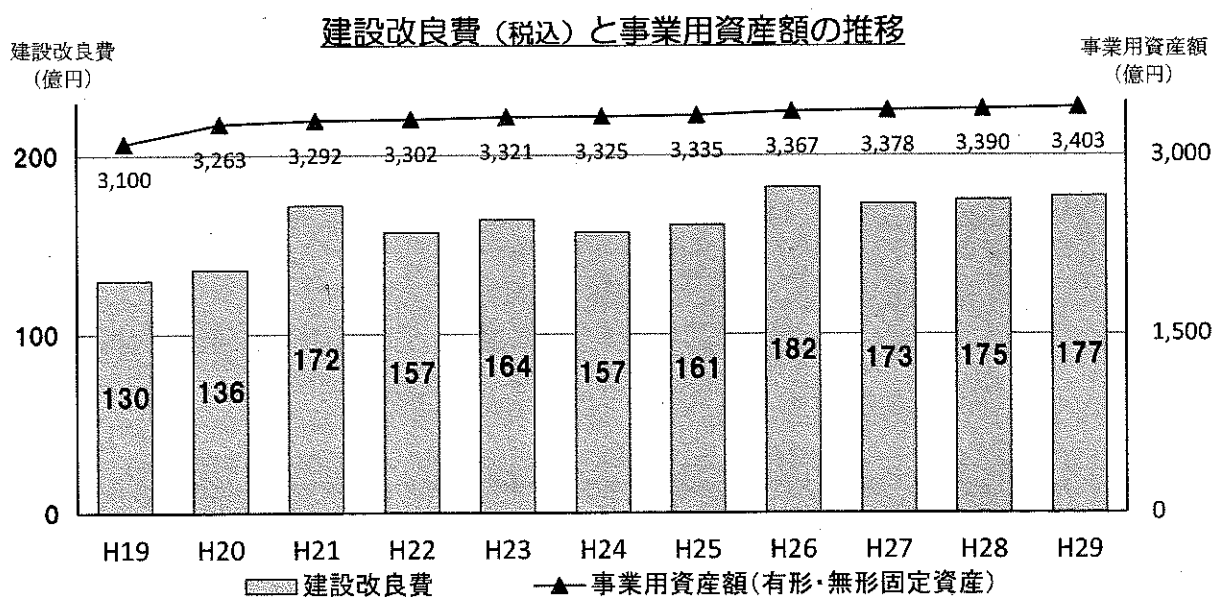
#### (イ) 近年の経営状況

総収益の9割以上を占める水道料金（給水収益）は近年横ばいとなっています。人件費や企業債利息等の費用を抑制することで純利益の確保に努めています。



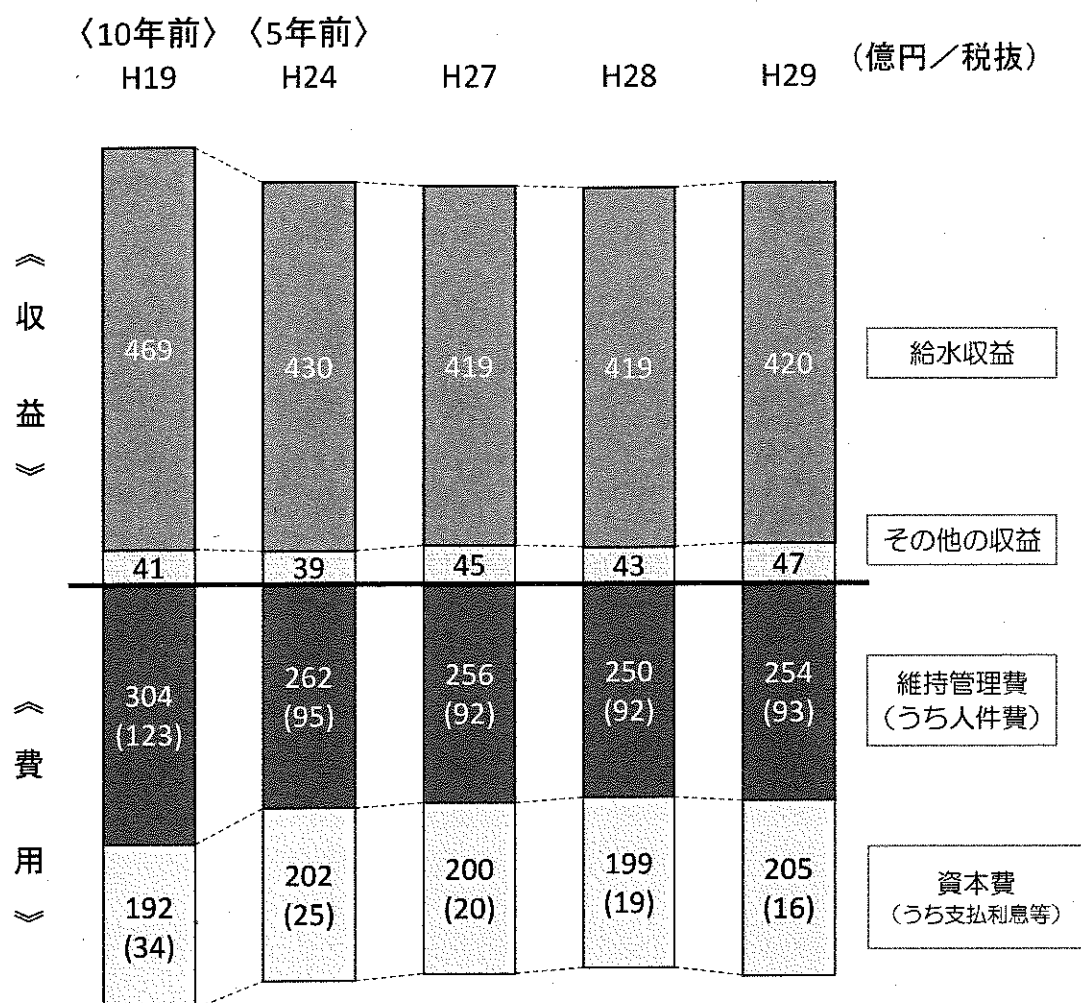
※不発弾発見による工事の遅れに伴い、費用が25年度から26年度に繰り延べられたことによるものです。

建設改良事業では、老朽化した施設や配水管の計画的な更新を実施するとともに、南海トラフ巨大地震を見据えた耐震化等の地震対策をすすめています。



(ロ) 主な収益・費用の推移

収益・費用の推移の内訳を表すと、下図のようになります。



収益は、給水収益とその他の収益に、費用は、維持管理費と資本費に区分しました。

維持管理費は、人件費を含む主に経常的な運営経費で、資本費は、施設の使用等による資産価値の減少額である減価償却費及び資産減耗費と、建設投資の財源となった企業債から発生した利息等の額で構成されています。

このうち、増減のあった主な収益・費用は以下のとおりです。

① 給水収益について

近年では横ばいで推移していますが、10年前と比較すると給水人口が増加する一方で使用水量が落ち込んでおり、約49億円の減収となっています。

### 給水収益と有収水量、給水人口の推移

区 分	H19	H24	H27	H28	H29
給水収益(億円)	469	430	419	419	420
一般用	343	322	317	317	317
業務用等	126	108	102	102	103
有収水量(百万m <sup>3</sup> )	278	265	262	262	263
一般用	240	233	231	231	232
業務用等	38	32	31	31	31
給水人口(万人)	236.3	239.1	242.7	243.6	244.6

### ② 人件費について

業務の効率化等による職員数の削減をすすめています。近年では、営業所体制の見直し、管路センターの設立、取水場の遠方管理化等の効率化を実施し、人件費の抑制に努めています。

#### 人件費と職員数の推移

区 分	H19	H24	H27	H28	H29
年度末総職員数(人)	1,433	1,302	1,304	1,292	1,282
総人件費(億円)	134	105	103	102	104
うち、損益勘定人件費(億円)	123	95	92	92	93

### ③ 支払利息等について

支払利息等は、計画的な企業債残高の縮減に努めたことや、新規発行時や借換時の利率が低水準にあったこと等により減少しています。

#### 支払利息等と企業債残高、平均利率の推移

区 分	H19	H24	H27	H28	H29
支払利息等(億円)	34	25	20	19	16
うち、企業債に関する支払利息等(億円)	29	19	16	15	13
企業債残高(億円)	1,054	969	934	913	898
平均利率(%)	2.29	1.87	1.60	1.46	1.34

(ハ) 純利益の使途

水道事業では、全国的にみて低い料金水準を維持しつつ純利益の確保に努めています。この純利益は、議会の議決を経たのち、建設改良積立金や減債積立金として積み立ててきており、建設改良事業や企業債の償還の財源として使用することで、施設の整備・更新や将来負担の軽減に役立ててきました。

平成 29 年度の純利益約 8 億 3 千万円は、平成 30 年度に全額を建設改良積立金に積み立て、老朽化対策や地震対策などの建設投資財源として平成 31 年度以降に使用する予定です。

純利益とその使途

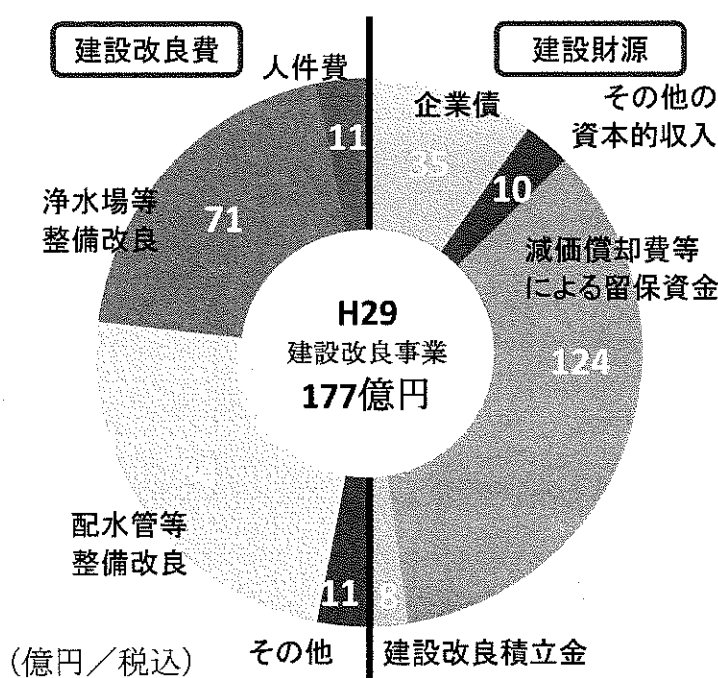
区 分	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	
純利益(億円)	14.3	9.4	6.2	4.2	6.9	5.1	16.8	△0.4	8.1	12.4	8.3	
使 途	建設投資財源		4.0	4.0	3.0	6.9	5.1	16.4		8.1	12.4	8.3
	企業債償還財源	14.3	5.4	2.2	1.2							
	純損失の補填							0.4				

※表は各年度の純利益の使途を表しており、積立金に積み立てる年度や財源として使用する年度とは一致しません。

(二) 建設改良事業と建設財源

建設改良事業は、資本的支出の建設改良費で行う工事等で、施設の整備・更新を実施しています。

下図は、平成 29 年度における建設改良費とその建設財源を表しています。図の左側は建設改良費の内訳、右側はその財源構成を示しています。



平成 29 年度においては、浄水場等の基幹施設、配水管等における老朽施設の更新や耐震化をすすめました。

建設財源については、企業債による長期借入金で 35 億円、残額を減価償却費等により留保される資金等で賄っています。なお、企業債による長期借入金は、借入金残高を増加させない金額に抑えています。

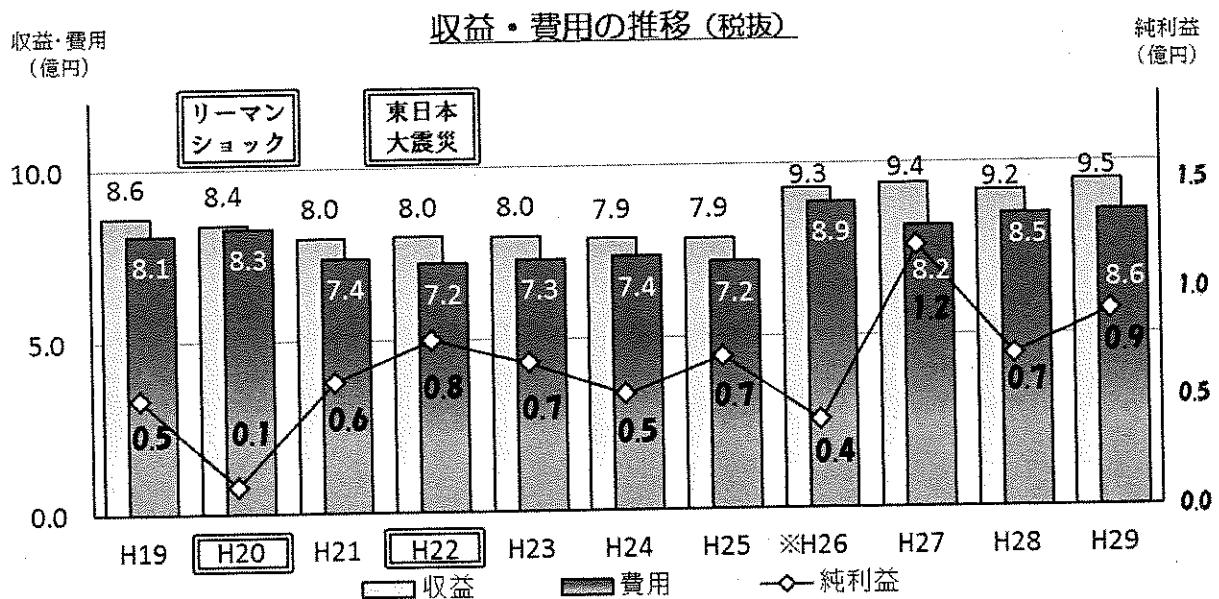


(2) 工業用水道事業

(イ) 近年の経営状況

平成20年度に徳山ダム建設事業費の償還金支払が始まったことを受けて、費用面で大幅な見直しを行い、浄水場の運転管理等を水道事業に委託しました。

工業用水道料金（給水収益）は近年横ばいとなっており、効率的な事業運営に努めることで純利益を確保しています。



※会計制度の見直しに伴い、長期前受金戻入による収益や減価償却費等による費用が大きく増加しました。

(ロ) 給水収益について

給水事業所数は微増となっているものの、給水量、給水収益共に横ばいで推移しています。

給水収益と給水量、給水事業所の推移

区 分	H19	H24	H27	H28	H29
給水収益 (億円)	8.4	7.9	7.9	8.0	8.0
給水量 (万 $\text{m}^3$ )	2,383	2,252	2,251	2,255	2,280
事業所数 (事業所)	109	108	113	115	117

(ハ) 純利益の使途

工業用水道事業では、効率的な事業運営に努めることで純利益を確保しています。この純利益は、議会の議決を経たのち、建設改良積立金や水源施設償還積立金などに積み立ててきており、建設改良事業や徳山ダム建設事業費の償還の財源として使用することで、施設の整備・更新や将来負担の軽減に役立ててきました。

平成 29 年度の純利益約 9 千万円は、平成 30 年度に全額を建設改良積立金に積み立て、全額を老朽化対策や地震対策などの建設投資財源として平成 31 年度以降に使用する予定です。

純利益とその使途

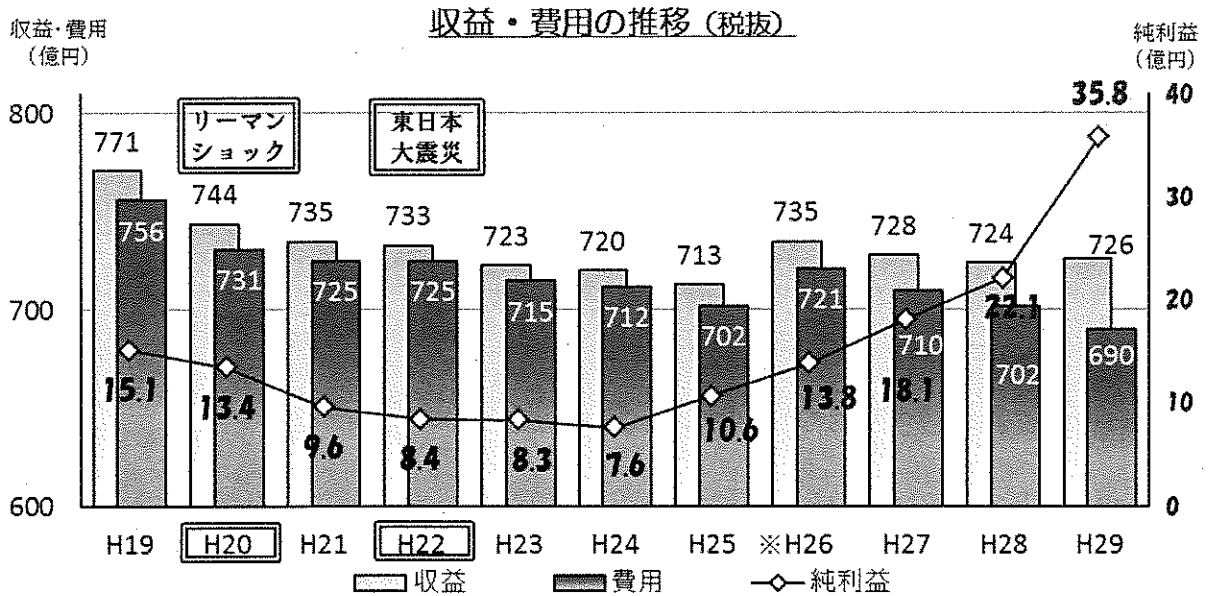
区 分		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
純利益(億円)		0.5	0.1	0.6	0.8	0.7	0.5	0.7	0.4	1.2	0.7	0.9
使 途	建設投資財源		0.0	0.0	0.0	0.4	0.5	0.7	0.4	0.2	0.7	0.9
	水源施設等償還財源	0.5	0.1	0.6	0.8	0.3						

※表は各年度の純利益の使途を表しており、積立金に積み立てる年度や財源として使用する年度とは一致しません。

### (3) 下水道事業

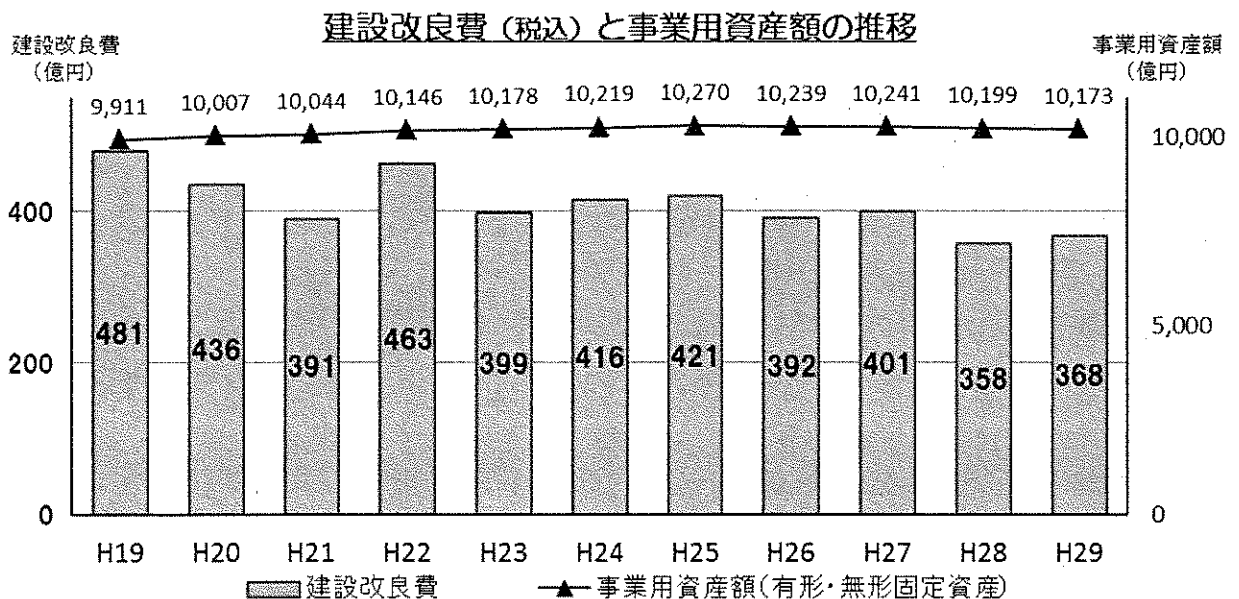
#### (イ) 近年の経営状況

下水道使用料は近年横ばいとなっています。人件費や企業債利息等の費用を抑制することで純利益の確保に努めています。



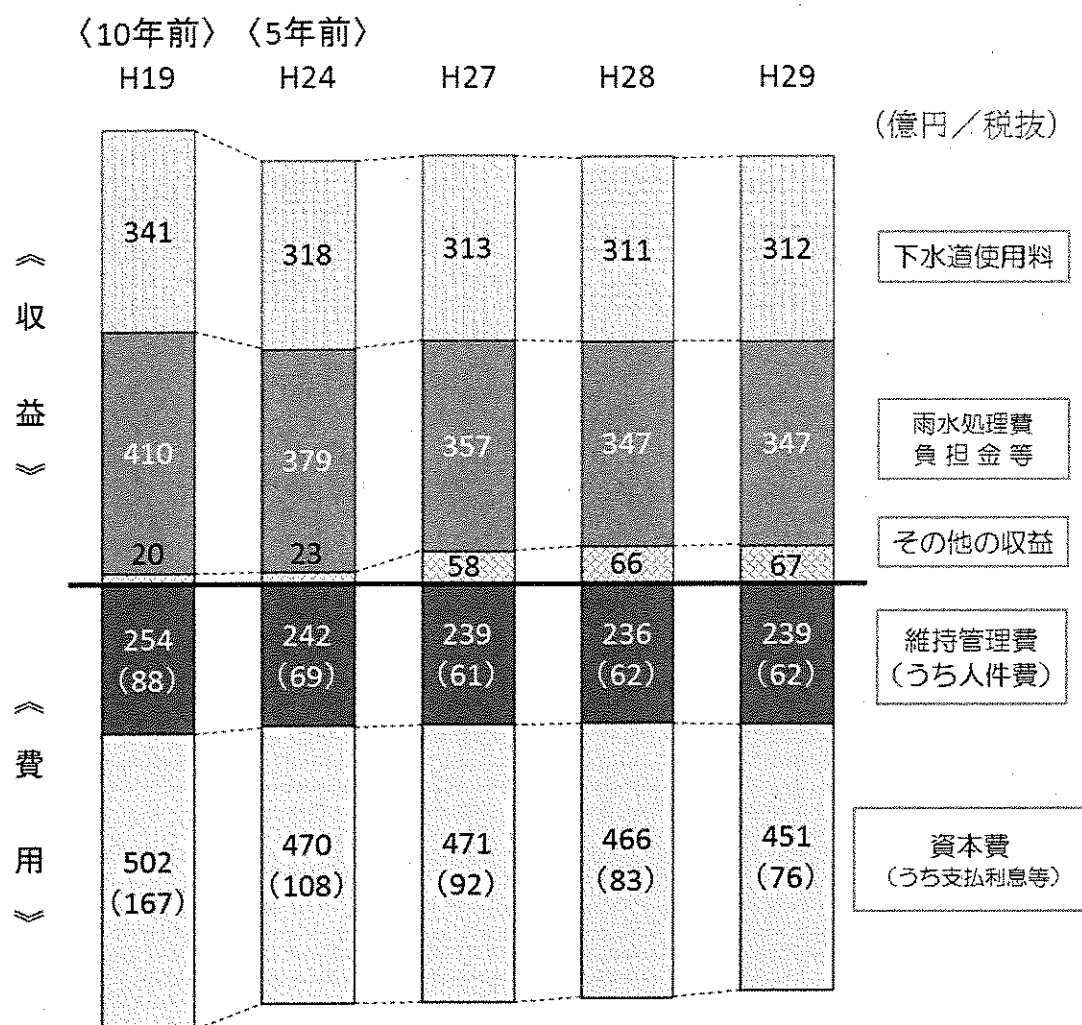
※会計制度の見直しに伴い、長期前受金戻入による収益や減価償却費等による費用が大きく増加しました。

建設改良事業では、老朽化した施設や下水管の改築及び耐震化、雨水貯留施設の建設や未整備地域への下水道整備を継続して実施しています。また、環境保全への対応として、高度処理の導入や合流式下水道の改善もすすめています。



(ロ) 主な収益・費用の推移

収益・費用の推移の内訳を表すと、下図のようになります。



収益は、下水道使用料と雨水処理費負担金等、その他の収益に、費用は、維持管理費と資本費に区分しました。

維持管理費は、人件費を含む主に経常的な運営経費で、資本費は、施設の使用等による資産価値の減少額である減価償却費及び資産減耗費と、建設投資の財源となった企業債から発生した利息等の額で構成されています。

このうち、増減のあった主な収益・費用は以下のとおりです。

① 下水道使用料について

近年では横ばいで推移していますが、10年前と比較すると水道使用量の落ち込みなどの影響により、約29億円の減収となっています。

### 下水道使用料と有収水量、処理区域内人口の推移

区 分	H19	H24	H27	H28	H29
下水道使用料 (億円)	341	318	313	311	312
水道汚水	308	284	277	276	277
その他汚水	33	34	36	35	35
有収水量 (百万m)	270	260	259	257	258
水道汚水	254	244	243	241	242
その他汚水	16	16	16	16	16
処理区域内人口 (万人)	220.2	224.1	227.9	228.7	229.5

### ② 雨水処理費負担金等について

雨水の排除に要する経費は、雨水公費・汚水私費の原則に基づき、一般会計からその全額を雨水処理費負担金等として繰入れています。

近年、経費節減に努めることなどにより雨水処理費負担金は減少していますが、雨水貯留施設の建設等を行っている緊急雨水整備事業の進展に伴い、緊急雨水整備事業費負担金は増加しています。

#### 雨水処理費負担金等の推移

区 分	H19	H24	H27	H28	H29
雨水処理費負担金等 (億円)	410	379	357	347	347
雨水処理費負担金	397	350	325	314	313
緊急雨水整備事業費負担金	13	29	32	33	34

### ③ 人件費について

業務の効率化等による職員数の削減をすすめています。近年は汚泥処理場やポンプ所の運転管理の外部委託化や、管路センターの設立等の効率化を実施し、人件費の抑制に努めています。

#### 人件費と職員数の推移

区 分	H19	H24	H27	H28	H29
年度末総職員数(人)	1,154	1,031	984	972	958
総人件費(億円)	106	86	79	79	80
うち、損益勘定人件費(億円)	88	69	61	62	62

### ④ 減価償却費等について

老朽化した施設や下水管の改築や耐震化、雨水貯留施設の建設、高度処理の導入や合流式下水道の改善など、下水道事業は多くの建設投資が必要であり、こうした建設改良事業がすすむことで減価償却費も増加しています。

### 減価償却費等と償却資産の推移

区 分	H19	H24	H27	H28	H29
減価償却費等(億円)	335	362	379	383	376
減価償却費	319	340	357	361	362
資産減耗費	16	22	22	22	14
償却資産(億円)	8,807	9,137	9,251	9,172	9,433

(注) 償却資産は、減価償却しない土地と供用開始前の資産を除く有形固定資産及び無形固定資産です。

### ⑤ 支払利息等について

支払利息等は、計画的な企業債残高の縮減に努めたことや、新規発行時や借換時の利率が低水準にあったこと等により減少しています。

### 支払利息等と企業債残高、平均利率の推移

区 分	H19	H24	H27	H28	H29
支払利息等(億円)	167	108	92	83	76
企業債残高(億円)	5,438	4,962	4,717	4,585	4,491
平均利率(%)	2.67	2.12	1.80	1.68	1.56

### (ハ) 純利益の使途

下水道事業では、全国的にみて低い料金水準を維持しつつ純利益を確保しています。この純利益は、議会の議決を経たのち、建設改良積立金や減債積立金として積み立ててきており、建設改良事業や企業債の償還の財源として使用することで、施設の整備・更新や将来負担の軽減に役立ててきました。

平成 29 年度の純利益約 35 億 8 千万円は、平成 30 年度に全額を建設改良積立金に積み立て、老朽化対策や地震対策などの建設投資財源として平成 31 年度以降に使用する予定です。

### 純利益とその使途

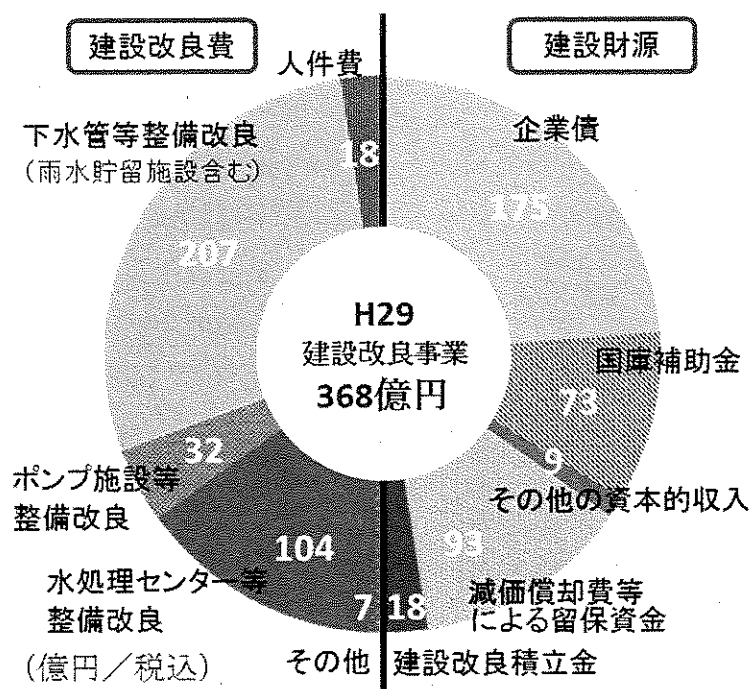
区 分	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
純利益(億円)	15.1	13.4	9.6	8.4	8.3	7.6	10.6	13.8	18.1	22.1	35.8
使途											
建設投資財源		6	5	5.0	8.3	7.6	10.6	13.8	18.1	22.1	35.8
企業債償還財源	15.1	7.4	4.6	3.4							

※表は各年度の純利益の使途を表しており、積立金に積み立てる年度や財源として使用する年度とは一致しません。

(二) 建設改良事業と建設財源

建設改良事業は、資本的支出の建設改良費で行う工事等で、施設の整備・更新を実施しています。

下図は、平成 29 年度における建設改良費とその建設財源を表しています。図の左側は建設改良費の内訳、右側はその財源構成を示しています。



水処理センターやポンプ所などの下水道基幹施設については、耐震化などの機能の向上を考慮して計画的に改築をすすめました。

下水管については、下水管の改築および重要な幹線等の耐震化をすすめました。

こうした改築、各施設の耐震化をすすめる一方で、緊急雨水整備事業等による雨水貯留施設の建設、未整備地域への下水道整備、高度処理の導入や合流式下水道の改善もすすめています。

道の改善もすすめています。

建設財源については、企業債による長期借入金で 175 億円、補助事業に対する国庫補助金で 73 億円、残額を減価償却費等により留保される資金等で賄っています。なお、企業債による長期借入金は、借入金残高を増加させない金額に抑えています。

## 5 主な施策

基本方針1 安心・安全で安定した上下水道サービスを提供し続けます

### (1) 持続可能で災害に強い施設整備

#### 水道基幹施設の更新および耐震化

29年度事業費 77億1,872万円  
(うち耐震化分 53億7,325万円)

- 本市の水道事業は、大正3年(1914年)の給水開始より100年以上が経過し、今後、高度経済成長期に整備された施設の多くが更新対象となる大量更新の時代を迎えます。

取水場から導水管を經由して浄水場へ、また浄水場から送水管を經由して配水場に至る、水道施設の上流部分である水道基幹施設については、「第4次水道基幹施設整備事業」に基づいて更新および耐震化を実施しています。

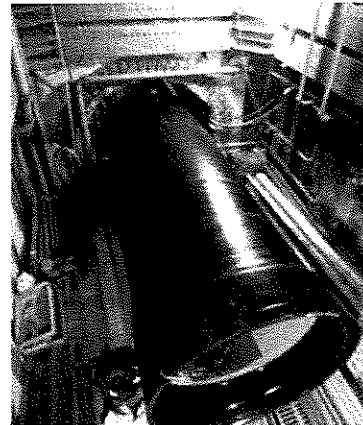
第4次水道基幹施設整備事業は、持続可能な施設運用の確保、強靱な水道システムの構築、環境負荷の低減を整備方針とし、アセットマネジメント手法の活用により、優先度、重要度を勘案しながら、平成28～平成32年度までの5か年で実施するものです。

平成29年度については、布設後80年以上が経過した犬山系導水路A管をはじめとする老朽化した施設の更新および耐震化などを実施しました。

#### 主な整備施設

##### 【犬山系導水路A管の更新】

犬山取水場から春日井浄水場までの導水路3条のうち1条である犬山系導水路A管は、昭和7年に布設した管路で、耐震性を高めるため更新を行っています。



写真：犬山系導水路A管の工事

##### 【春日井浄水場新送水ポンプ所の整備】

老朽化した既設ポンプ所の更新のため、新ポンプ所の整備を行っています。



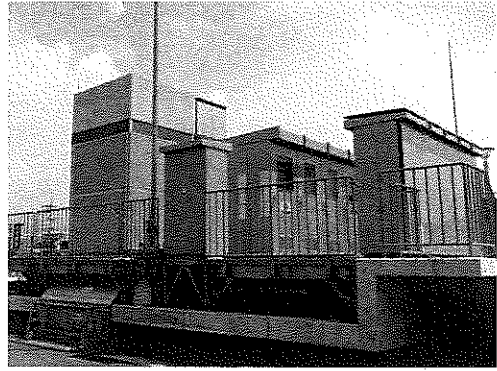
写真：春日井浄水場新送水ポンプ所の整備



【大治浄水場非常用発電設備の整備】

大規模災害等による長時間停電時においても浄水処理を継続し、必要な水量を配水できるように、非常用発電設備の能力増強を行っています。

区 分	整備前	整備後
総発電量(kVA)	3,000	7,000
運転可能時間(時間)	19	72

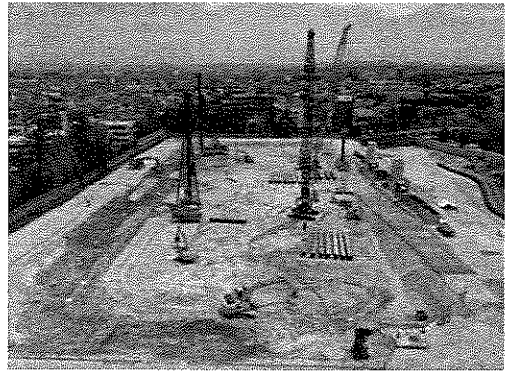


写真：大治浄水場非常用発電設備の整備

【東山配水場3・4号配水池の更新】

東山配水場3・4号配水池は、昭和3年に完成した施設で、耐震化と容量の増強を図るため更新を行っています。

区 分	有効容量(m <sup>3</sup> )	
	更新前	更新後
3号池	9,370	23,500
4号池	9,370	



写真：東山配水場3・4号配水池の工事

【鳴海配水場3号配水池の耐震補強】

3号配水池の耐震性を確保するため、耐震補強を行っています。



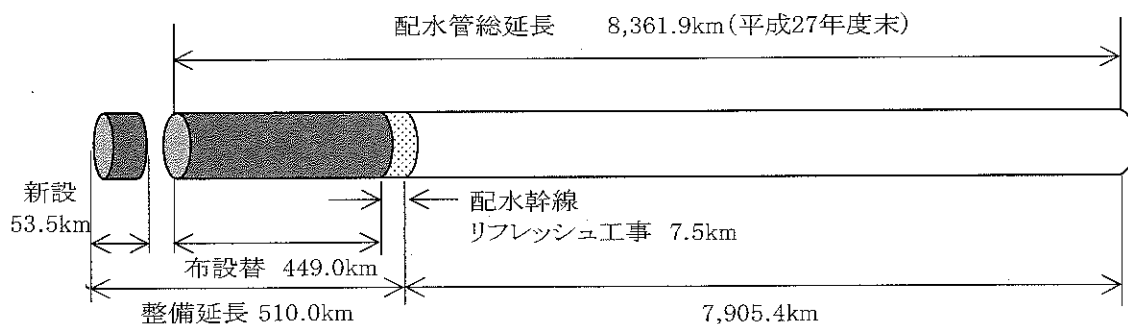
写真：鳴海配水場3号池配水池の工事

配水管の更新および耐震化

29年度事業費 127億6,918万円  
(うち耐震化分 124億6,245万円)

- 配水管については、「第4次配水管網整備事業」(平成28~32年度)により、老朽管の更新と耐震化をすすめています。  
計画では、平成27年度末時点の配水管延長8,362kmについて、平成28年~32年度の5年間で510kmの配水管整備の実施を予定しており、これに基づいて老朽管の更新と耐震化を実施しています。

第4次配水管網整備事業 (H28~32) について



※更新対象の中で老朽度の高い配水管から布設替を実施

第4次配水管網整備事業の実施状況および計画

区 分	全体計画 (H28~32)	実施状況および計画				
		H28決算	H29決算	H30予算	H31計画	H32計画
整備延長 (km)	510.0	109.6	102.5	102.0	102.0	102.0

- 災害時の給水優先度が高い施設へ至る配水管について優先的に耐震化をすすめており、平成28年度からは指定避難所へ至る配水管の耐震化をすすめて、平成32年度に完了する予定です。

指定避難所へ至る配水管の耐震化実施状況および計画

区 分	計画 (H28~32)	実施状況および計画				
		H28決算	H29決算	H30予算	H31計画	H32計画
整備延長 (km)	27.5	9.1	7.8	5.5	5.1	—

工業用水道施設の更新および耐震化

29年度事業費 2億6,628万円  
(うち耐震化分 1億6,460万円)

- 工業用水道の安定供給のため、老朽化している浄水場設備や配水管の更新を行い、耐震性を強化しました。

配水管整備延長 : 0.7km

- 本市の下水道事業は、大正元年（1912年）に供用を開始し、現在運用している水処理センター、ポンプ所、汚泥処理場の多くは、高度経済成長期に集中して整備されたものとなっています。これらの施設が今後改築需要のピークを迎えるため、事業費の平準化に配慮しながら計画的に改築をすすめる必要があります。

また、巨大地震や集中豪雨などの災害への対応や下水道の放流先である河川等や伊勢湾の水環境の向上を目的とした高度処理の導入、合流式下水道の改善など、施設の機能向上も行っていく必要があります。

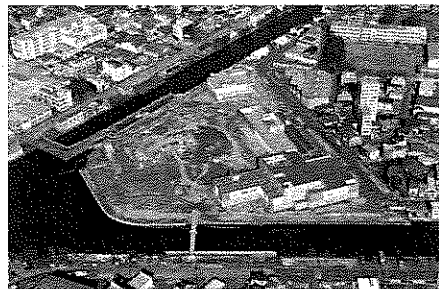
現在は、「下水道基幹施設整備計画」（平成26～32年度）に基づき、耐震化などの機能の向上を図りながら計画的に改築をすすめています。

平成29年度は、露橋水処理センターの改築等をすすめるとともに、空見スラッジリサイクルセンター第2期施設の整備をすすめました。また、植田水処理センターをはじめとする既存施設の老朽化した設備の改築を行いました。

#### 主な整備施設

##### 【露橋水処理センターの改築】

露橋水処理センターは昭和8年（1933年）から稼働していた施設であり、老朽化に伴い平成15年度から改築を実施し、平成29年9月に水処理施設が稼働しました。



写真：露橋水処理センターの改築工事

##### 【空見スラッジリサイクルセンター第2期施設の整備】

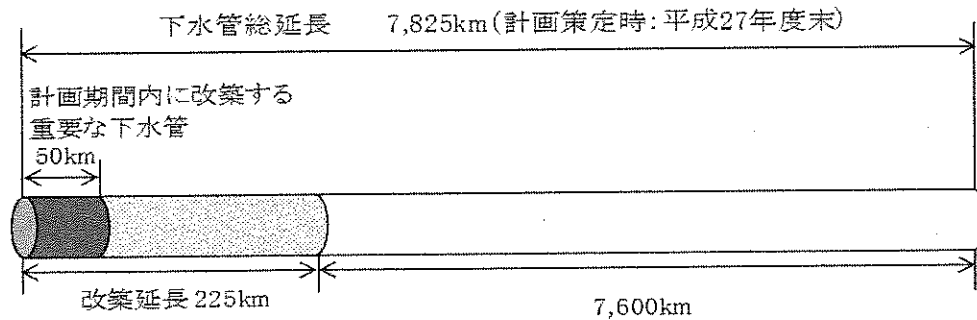
老朽化が進んでいる山崎汚泥処理場の代替施設として、空見スラッジリサイクルセンター第2期施設の整備を実施しています。



写真：空見スラッジリサイクルセンター第2期施設の整備

- 下水管については、「第8次下水管路調査改築計画」(平成28~32年度)に基づき、老朽化した下水管の調査と改築および重要な下水管の耐震化をすすめています。計画では、平成27年度末時点の下水管総延長約7,825kmについて、平成28~32年度の5年間で500kmを調査する予定としています。また、古いコンクリート管や調査の結果不良と判定された下水管などの改築が必要な管路405kmのうち、優先度の高い225kmを改築する予定としています。

第8次下水管路調査改築計画 (H28~32) について



第8次下水管路調査改築計画の実施状況

区 分	全体計画 (H28~32)	実施状況および計画				
		H28決算	H29決算	H30予算	H31計画	H32計画
調査延長 (km)	500.0	136.5	116.6	100.0	100.0	100.0
改築延長 (km)	225.0	45.8	44.6	45.0	45.0	45.0
(うち重要な下水管)	(50.0)	(6.5)	(8.2)	(10.0)	(10.0)	(10.0)

- 液状化想定区域内にある重要な下水管に接続するマンホールについて、優先的に浮上判定および浮上防止対策を実施しています。

マンホールの浮上判定および浮上防止対策の実施状況

区 分	全体計画 (H28~32)	実施状況および計画				
		H28決算	H29決算	H30予算	H31計画	H32計画
マンホール (箇所)	6,519	1,362	1,318	1,300	1,300	1,239

- 下水管の損傷に起因する道路陥没を未然に防ぐため、道路下の空洞をレーダーで調査(空洞調査)するとともに、陥没の主な原因となっている取付管(宅地内と下水本管をつなぐ管)をテレビカメラで調査(取付管調査)しています。

空洞調査および取付管調査の実施状況

区 分	全体計画 (H28~32)	実施状況および計画				
		H28決算	H29決算	H30予算	H31計画	H32計画
空洞調査 (km)	※ 655.0 (550.0)	112.4 (110.0)	145.5 (110.0)	140.0 (110.0)	140.0 (110.0)	125.0 (110.0)
取付管調査 (箇所)	125,000	37,206	36,097	25,000	25,000	25,000

※( )内の数字は当初計画。29予算において調査延長を増加させている。

- 東海豪雨、平成20年8月末豪雨などにより、市内各所で広範囲にわたって浸水被害が発生したことを受けて、著しい浸水被害が集中した地域や都市機能の集積する地域を対象として緊急雨水整備事業を着実に実施するとともに、その他の地域についても浸水対策をすすめています。

緊急雨水整備事業では、原則1時間60ミリの降雨に対応するための雨水調整池の建設や雨水ポンプの増強などを行っています。

平成29年度においては、名古屋中央雨水調整池はじめ5箇所を引き続き行っています。ポンプ所については、広川ポンプ所の工事を引き続き行っています。また、管きよの増強については、2地域で工事が完了し、7地域で引き続き整備をすすめています。



写真：雨水調整池の建設現場  
／中村中部雨水調整池（工事中）

緊急雨水整備事業の実施状況

区 分	全体計画	H29までの実施状況			
		完 了			工事中
		～H28	H29	計	
雨水調整池の建設 (箇所)	49	43	0	43	5
雨水ポンプ増強等 (箇所)	16	15	0	15	1
管きよの増強 (地域数)	40	31	2	33	7

(2) 災害対応力の強化

「自助」「共助」の支援

- 地域主催の防災訓練に積極的に協力し、地下式給水栓の操作訓練や下水道直結式仮設トイレの組み立て訓練を実施しました。また、なごや水フェスタや市政出前トークなどのイベントで、災害時に備えた飲料水の備蓄の呼びかけや洪水・内水ハザードマップの活用方法の説明、簡易水防工法、雨水ますの清掃の重要性のPRを行いました。
- 地下式給水栓を地域のみなさまにさらに知っていただき、災害発生時に確実に活用していただけるよう、区役所などと連携して地下式給水栓アドバイザー講習会を10区で開催し、222名の方を新たに登録しました。
- 災害用備蓄飲料水「名水」の賞味期限を3年から5年に延長するとともに、容量を375mlから475mlに増量し、6,735箱販売しました。

## 他都市や民間企業等との連携強化

- ・ 災害発生時に速やかに上下水道機能を回復するため、相互応援協定を締結している（公社）日本水道協会中部地方支部内の事業体と合同防災訓練を実施しました。



写真：（公社）日本水道協会中部地方支部の合同防災訓練

- ・ 応急給水における協力体制の強化を図るため、「災害時における仮設給水栓の設置等に関する協定書」により、仮設給水栓を112基寄託している名古屋市指定水道工事店協同組合と防災訓練を実施しました。



写真：名古屋市指定水道工事店協同組合との防災訓練

- ・ 本市が被災した際により迅速な災害復旧を行うため、東邦ガス株式会社との間で「災害時における相互協力に関する協定」を締結しました。



写真：東邦ガス株式会社との協定調印式

## （3）水道水の安全性やおいしさの向上

### 木曾三川流域連携の推進

- ・ 流域自治体の市町村長等が、他の流域自治体を直接訪問し意見交換等を行う「第7回木曾三川流域自治体サミット」を愛知県津島市で開催しました。
- ・ 流域の農作物や特産品等を販売する「木曾三川マルシェ」や上中流域の生産者と下流域の仕入れ企業が生産物等の商談を行う場を提供する「木曾三川流域ビジネス商談会2017」を行いました。また、水環境保全への理解を深めるため、流域住民が参加し流域の水環境に関して意見交換を行う「第8回木曾三川流域連携シンポジウム」や給水区域内の住民が水源地保全活動を実施する「木曾川さんありがとう」等を行いました。



写真：木曾三川マルシェ（なごや水フェスタ）

## 水質管理の充実と浄水技術の向上

- 水道水質に影響をもたらすリスクを把握するために、水源の水質監視として水質調査を定期的実施しました。また、急速ろ過池で安定的に浄水処理を行うため、ろ材の洗浄などを行うろ床更生を12池実施するとともに、高感度濁度計による徹底したろ過水の濁度管理を実施しました。さらに、木曾川における水質変動時の浄水場の運転方法の検討や、浄水処理技術の研究を実施しました。

## 残留塩素濃度の適正管理

- 安全でおいしい水道水を供給するため、残留塩素濃度を連続監視し、適正な塩素注入管理を実施しました。また、じゃ口までの流達時間を短縮するため、送水ルートの変更をすすめました。

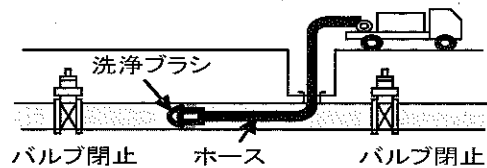
## 配水施設の適正管理

- 配水管内面を計画的に調査し、きょう雑物が発生している配水管内について、クリーニング工事を実施しました。また、配水池の清掃を1池実施しました。

### 29年度実績

配水管内クリーニング	-	32km
配水池清掃	-	1池

### 配水管内クリーニング工事



## 直結給水の普及促進

- 窓口での設計相談時や貯水槽水道の点検時など、お客さまと接する機会を利用して、直結給水のメリットをPRしました。  
また、直結給水化するための工事費の一部軽減措置を実施することで、直結給水への切替えを促しました。

### 【直結給水を採用した中高層建物】

H29年度に施工した建物で、直結給水が可能な新築の建物のうち、直結給水を採用した建物の割合：98.4% (1,203件中 1,184件)

## 貯水槽水道の適正管理に向けた点検・指導

- ・ 給水区域内の全小規模貯水槽水道を対象に、点検・指導（3,981件）を実施しました。また、平成28年度の点検・指導において改善を働きかけた施設につき、改善状況の確認（596件）を実施しました。

## 水道水の魅力向上

- ・ より多くのお客さまに、なごやの水道水のおいしさを感じていただくため、局内外のイベント（なごや水フェスタ、世界コスプレサミット、につぼんど真ん中まつり等）に冷水機「金鯨水」を設置するなど、水道水を直接飲んでいただく機会を提供しました。



写真：世界コスプレサミット



基本方針2 健全な水環境の創出や循環型社会の構築に貢献します

(1) 下水道による水環境の向上

下水道の未整備地域の解消

29年度事業費 12億600万円

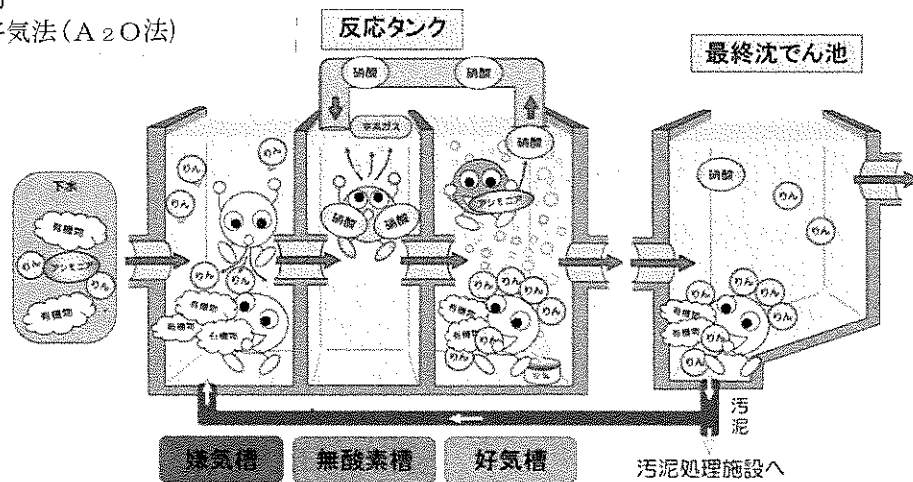
- 中川区および港区の庄内川西部地区、守山区の志段味地区並びに緑区の一部地域における下水道整備をすすめました。この結果、処理面積は40ha増加し、人口普及率は99.3%となっています。

下水の高度処理の導入

29年度事業費 11億円

- 改築にあわせ高度処理を導入する露橋水処理センターの建設を引き続きすすめ、水処理施設が稼働しました。また、植田水処理センターの高度処理導入、散気装置の改築に関する工事をすすめました。

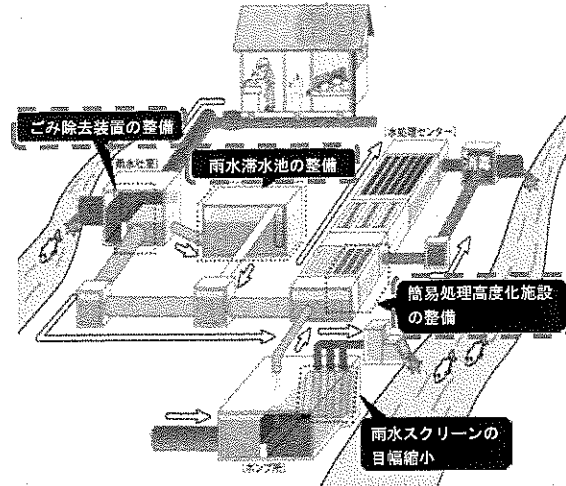
高度処理の一例  
嫌気無酸素好気法(A<sub>2</sub>O法)



りん除去：微生物が嫌気槽でりんを吐き出し、好気槽で吐き出した以上のりんを取り込むことで水中からりんを除去します。

窒素除去：微生物が好気槽でアンモニアを硝酸に変化させ、この硝酸を含んだ水を無酸素槽に送ることで、無酸素槽の微生物が硝酸から窒素ガスを生成します。生成された窒素ガスは大気中に放出され水中から窒素が除去されます。

- 簡易処理高度化施設については、露橋水処理センター及び宝神水処理センターが稼働し、堀留水処理センター及び名城水処理センターで整備をすすめました。また、堀川左岸雨水滞水池及び露橋雨水滞水池で雨水滞水池の整備を引き続きすすめました。



( ) 平成29年度に整備をすすめた改善施策

排水設備の適正管理に向けた啓発活動

- 地下排水槽（ビルピット）からの悪臭発生を防止するため、平成18年度から27年度までに実施した調査結果をもとに、悪臭発生源となる可能性がある施設の管理者に対して、排水ポンプの運転方法や清掃等について改善を働きかけました。また、上記調査以降に新設された施設についても調査し、必要に応じて改善を働きかけました。

<b>【実施内容】</b>	
H29年度の実施件数	
改善啓発件数	: 115件
新規施設への調査件数	: 57件
(うち改善啓発件数)	: 5件)

- 公共用水域の汚濁を防止するため、ディスポーザ排水処理システムや飲食店などに設置する油（グリース）阻集器の定期的な点検や清掃などについて設置者などに働きかけをしました。

<b>【実施内容】</b>	
H29年度の改善啓発件数	
・ディスポーザ	: 60件
・油阻集器	: 3,491件

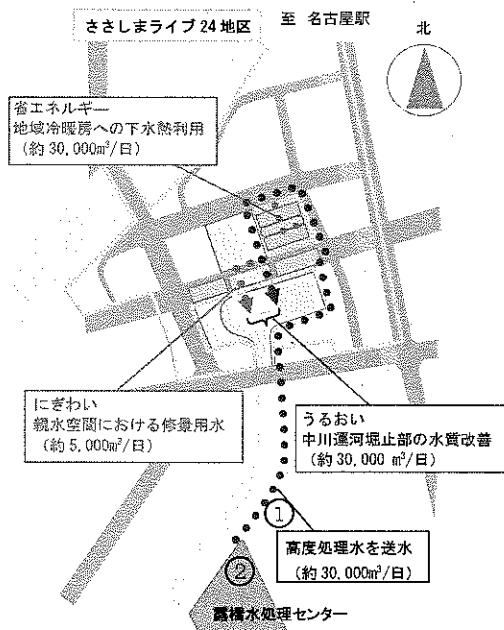
## (2) 環境にやさしい事業活動の推進

### 温室効果ガスの排出削減

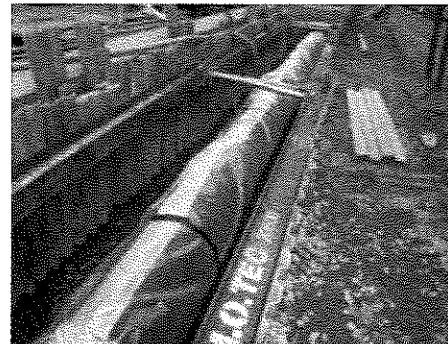
- ・ 電力使用量の削減をはかるため、基幹施設の位置エネルギーを利用して水を流す自然流下による送配水範囲の拡大など、水運用の効率化に向けた施設整備をすすめました。
- ・ 下水汚泥の高温焼却による一酸化二窒素の抑制、水処理センターの反応タンクにおいて超微細な気泡を発生する散気装置の利用による電力使用量の削減に引き続き取り組みました。

### 再生可能エネルギーの有効活用

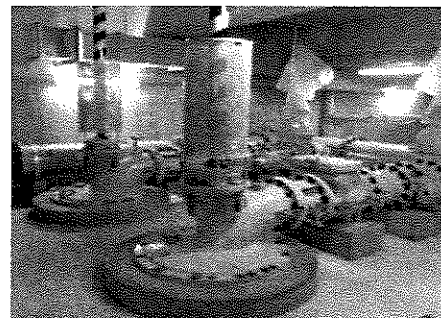
- ・ 空見スラッジリサイクルセンター第2期施設の整備にあわせて、下水汚泥固形燃料化石事業をすすめており、この事業を通して下水汚泥のエネルギー利用に努めます。
- ・ 露橋水処理センターの高度処理水をささしまライブ24地区へ送水し、高度処理水が有する熱エネルギーを地域冷暖房の熱源として供給しています。あわせて、高度処理水を公園の修景用水や、ささしまライブ24地区に隣接する中川運河堀止部の水質改善に活用します。平成29年10月より本格送水を開始しました。



【高度処理水活用事業の概要図】



【①工事中の送水管 口径600mm 延長1,100m】



【②送水ポンプ 口径400mm 2台】

- ・ 上下水道局施設の屋根を民間事業者に貸し出し、太陽光発電設備の設置をすすめました。

### 基本方針3 お客様から信頼される健全な経営をめざします

#### (1) 広報広聴を通じた信頼関係の構築

##### 親しみやすくわかりやすい広報

- 職員が講師となり市立小学校を訪問して、水道・下水道に関する講義および実験を行う上下水道訪問授業を、希望する全ての小学校（153校、11,311名）で実施しました。



写真：上下水道訪問授業

- テレビや新聞、ラジオなどを活用し、イベントや施設の紹介を行うとともに、資料提供を通じて情報発信を行いました。また、従来の広報では情報が十分に届きにくい若者世代に対して、世界コスプレサミットやにっぽんど真ん中祭りなどのイベントに参加し、多くの若者に水道水の提供などを通じたPRを行いました。

##### 事業への理解を深める広報の充実

- 局公式ウェブサイトのデザインをリニューアルして分かりやすくカテゴリーを整理するとともに、スマートフォン対応を図りました。

- ほのか雨水幹線下水道築造工事の工事現場見学会を実施したほか、浄水場や水処理センターの団体見学の受け入れや、六条ポンプ所の公開などを実施しました。



写真：工事現場見学会

##### きめ細やかで積極的な広聴

- 本市の上下水道事業に関し、お客様からご意見・ご要望を伺い今後の事業運営の参考にするため、上下水道モニターを公募し、ご登録いただいています。インターネットを利用したアンケートでは、事業の認知度やお客様のニーズなどの把握に努めています。  
また、局主催のイベントに来場したお客様に対してもアンケート調査を行うなど積極的な広聴活動を行いました。
- お客様の声やアンケートで把握したお客様のニーズを、業務改善や事業運営に活かし、お客様満足の向上に取り組みました。

## お客さまとの協働の推進

- ・ 上下水道事業のPRにご協力いただけるお店や企業等を「名水パートナー」として登録し、イベントでの連携や広報物の配架などを通して、上下水道事業をPRしました。
- ・ 上下水道モニター経験者の有志による当局のサポーター組織であるアメンボクラブに、水源地岩屋ダムでの植樹・清掃活動、局防災訓練への参加や、なごや水フェスタを始めとするイベントにご協力をいただきました。

## (2) 経営基盤の強化

### 収益の確保

- ・ 大口使用のお客さまを中心に訪問活動を実施し、ニーズ・動向の把握に努めるとともに、今後も引き続き水道を使用していただけるように信頼関係の構築を図りました。
- ・ 家庭における浴槽入浴などの健康に役立つ水利用について、イベントなどを通じてPRしたほか、環境にやさしい水利用として、環境局と連携しイベントにて緑のカーテンの育成についてPRしました。また、局公式ウェブサイト内にコンテンツを追加し、水道水の新たな利用方法について情報発信しました。
- ・ 事業用定期借地権による貸付を拡大するなど、現有資産を利用した収益の確保に努めました。

### 業務執行体制の見直し

- ・ ポンプ所の運転管理拠点の集約を行いつつ、運転管理業務を委託しました。
- ・ 営業所と管路センターにおいて、それぞれ業務を集約し効率化をすすめました。

### 官民連携の推進

- ・ 空見スラッジリサイクルセンター第2期施設の整備にあわせて、下水汚泥固形燃料化事業をすすめており、民間事業者に施設の設計、建設および運営・維持管理を一括して発注するDBO方式にて事業をすすめました。

### 情報システムの効率的な運用管理

- ・ 保守管理の効率化や設備経費の削減とともに、業務停止リスクの軽減や情報セキュリティの向上を目的とし、災害・障害に強く、高いセキュリティが施されている民間データセンターを活用し、上下水道局の施設内に点在しているサーバの集約をすすめました。
- ・ システム全体の構成が老朽化している営業事務オンラインシステムの再構築を引き続きすすめました。

### 知識・技術の継承と人材育成

- ・ 研修内容の充実やOJTの推進をはかり、職員の成長意識を促し、職員一人ひとりの能力の開発向上につとめました。
- ・ 上下水道施設の維持管理レベルや非常時・緊急時の対応レベルの向上、職員の現場対応力の強化をはかる実践的な研修に取り組みました。

### (3) 広域化・国際協力の推進

#### 近隣上下水道事業体との連携

- ・ 清須市、北名古屋市、あま市および大治町の本市給水区域における下水道使用料の徴収事務を引き続き受託するとともに、名古屋上下水道総合サービス株式会社による個別業務の受託など、周辺市町からのニーズに応じた業務支援を行いました。

#### 国際協力の推進

- ・ 開発途上国が抱える上下水道の問題解決に寄与するため、独立行政法人国際協力機構（JICA）と協力し、技術協力にかかる調査等のため職員の海外派遣を行ったほか、無収水量の削減を目的とした研修を実施し、海外からの研修員の受け入れを行いました。
- ・ 中部地域の産・官・学で構成される、水のいのちとものづくり中部フォーラムに参加し、地域の産業界の活性化にも寄与する国際的な水ビジネスの展開を支援しました。



この冊子は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。